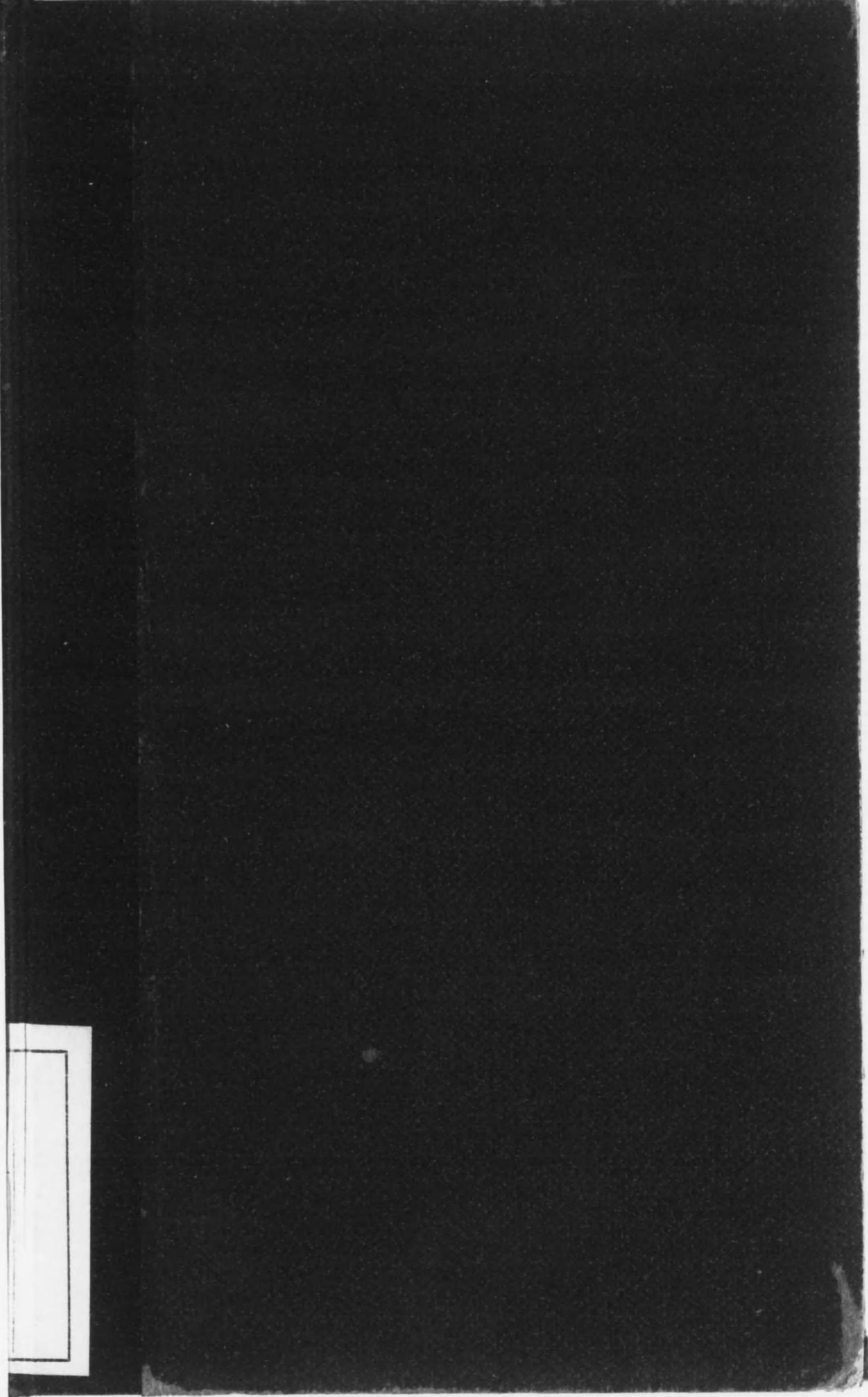
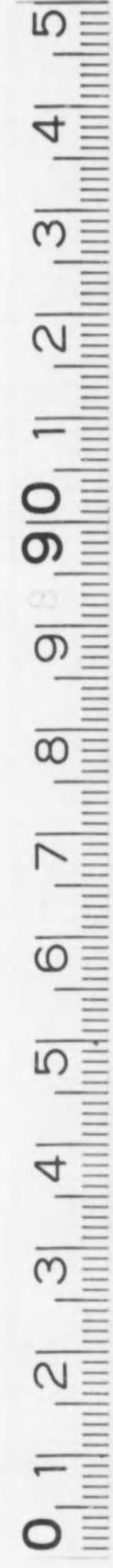


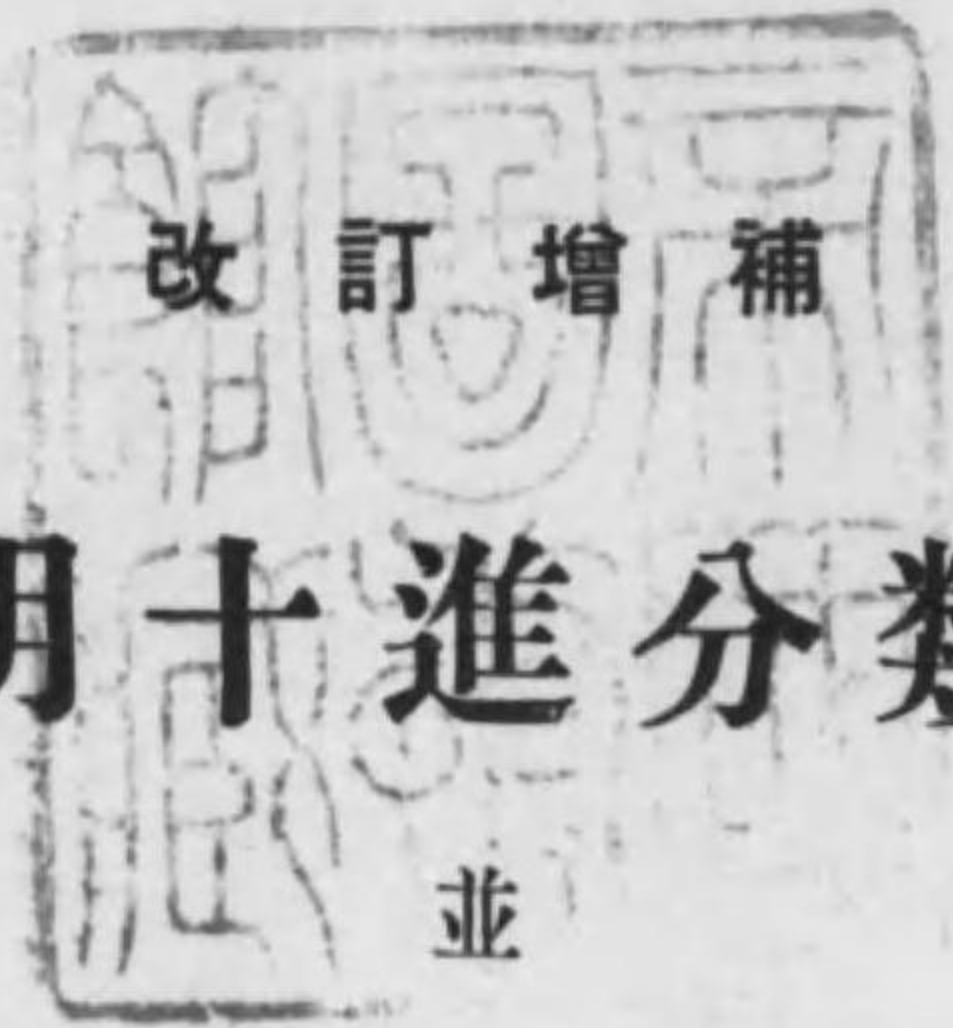


始



278  
393

R  
014.4  
Mo.451



改訂增補

# 簡明十進分類表

並

## 索引

### 附錄

兒童圖書分類表  
分類法參考文獻  
圖書分類二論考  
外國分類表集覽

毛利宮彥編著

二千六百年版

圖書館事業研究會



著者寄贈本

278  
353

# 目次

緒言	1
分類とは何か	1
1. 分類法の組織	1
事項の排列順序	2
地理別の助記性	4
形式別・年代別	7
索引について	7
2. 分類法の適用	8
本表を活用するには	8
分類記號の指定	9
主類表	11
主綱表	12
細目表	14
児童圖書分類表について	24
幼年圖書分類表	25
少年圖書分類表	26
索引	27
同 [増補]	39
分類法參考文獻	43
圖書分類二論考	46
「標準分類法」の批評について	46
N・D・C・第三版を見る	54
外國分類表集覽	
Dewey's Decimal C.	附表 [1]
Brussel Decimal C.	附表 [2]
Princeton Univ. C.	
Sayers' C.	
Bolden's C.	
Bliss' C.	
Cutter's Expansive C.	附表 [3]
Brown's Subject C.	附表 [4]
Congress Library C.	

# 自序

去る昭和十一年夏、著者は一書「圖書の整理と運用の研究」を世に問ふたのであるが、その翌同書に別冊附録とした「簡明十進分類法」に對して、各方面からの要求が屢々あつたので、今回同分類表に若干の改訂を施し、索引にも増補を加へて、上梓之に應ずることとしたのである。

本來この分類表は、デュウキ-氏の十進分類法所謂 D・C・の翻案や模倣ではなく、最も日本的と思惟せらるゝ立場から之を適用したものであつて、分類表は緻密で詳密なる程よいと言ふやうな、單純な形式主義から出發したものではない。そして本分類表の「緒言」の中にも述べたやうに、飽くまで我國の圖書館の現状に即して、分類實務の上に最も効果的な一種の道具(ツール)たることを、期待したところのものである。

改訂の箇所について言へば、「地理別の助記性」中の、〔二〕同一の綱中の第三段の目に於て、日本と外國とを對立して、更に外國を國別する場合に於ける、〔一〕印度以外のアジアオセアニア洲での、國別の順序についてであり、また世界的な大轉機を迎へて、最近數年來頓に研究提唱されてゐる大きな題目及び新事項を附加して、夫等のものゝ歸趣を明にしたことである。日本學、東亞主義、統制經濟、國民學校、重工業などは其一端である。

尙多くは目以下、即ち第四段に配置せられるであらう事項の中、圖書の主題として其分類場所の明示が、特に必要と思考せられる領末事項も、出来るだけ索引の中に新たに増補して、分類工作に當つての參考に資することとした。資源、グライダー、宣傳、内職等々百數十項に亙る。

凡そ圖書の分類技術者であるならば、學に對する可なり徹底した知識と、感性の持主である筈である。又その實務の上に於ける練磨からして、必要とする細密分類については都合いゝやうに、その都度自らのプランを作成すべきものと思はれる。都市計畫に於ける道路施設は、幹線その他の主要な路線の建設にあるべきで、決して各人の住家への小道や露地の奥にまでは、及ぼすの要はないであらう。そして其計畫の良否は、一に大綱より或る程度までの設計の、成功不成功に在るものと信ずる。圖書分類法に於ける眞にまた然りと云へやう。敢て大方の指示を乞ふ所以である。 紀元二千六百年秋十月

著者

# 簡明十進分類法

毛利宮彦 編著

緒言

分類とは何か 「分類」とは、それが知識の上でも、亦書籍といふものに對しては、相似のものを集むること、普通に言はれてゐるが、この相似のものとは一體どうゆう事であるか、根本的に考へねばならぬ問題である。これは或る事物の、第一義的には形式とか性質とか動作とかいふやうな、時間的空間的のものでなく、宇宙の森羅萬象が持つところの、「意圖」或は目的に、就てなければならぬ。法則は即ち意圖である。圖書分類法は合目的であるべきと思ふ。

斯る相似の觀念を以てする時、知識の分類といふものを、或る程度に適用するところの、圖書の分類も亦、この「意圖」の相似に據つて、分類の根本的觀念とするものであることは、當然と認むるべきものと信ずる。従つて圖書の分類表なるものは、一にこの「意圖」表現の、反映であらねばならぬ。即ち相似した意圖の、記載であるところの圖書の、集團に對する一種の地圖であるとも言へる。

## 1 分類法の組織

**本分類表の要旨** 大體メルヴェイル・デユウイー氏の十進法、所謂D・Cに準據したものであるが、次に列記した理由に依り、その機構をより簡單に、事項の存在をより明確に、成すことを期待し次の諸觀點から、之を修正又は再整理したところの、「簡明十進分類表」である。

- 一、日本文化の特殊性
- 二、現在の圖書館の實情
- 三、整理及利用上の利便

〔一〕に就ては言ふまでもなく、吾々の圖書の大多數は、所謂和漢書であつて、洋書ではない。従つて、殆ど洋書をのみ對象として、作製されたD・Cは、その

事項の順序排列に於て、東西文化の異質からして、かなりの改変を餘儀なくされるのである。また和漢洋書の共通分類といふことも、理論上及び實際上これを主張するものであるが、一般の公共図書館に於ける洋書冊数は、全蔵書の二割以下であるといふ事實に即して、第二段の綱に於けるまでの、一致共通を實際化するを以て妥當であるとする。

〔二〕現在の我國公共図書館の規模は、D・Cを生んだ米國のそれと比較すると、適に低位である。蔵書十萬冊以上の図書館、我の十館に對し、彼の約百館である。如上の事實に基き、本分類表は第三段本位のものとして、綱目の配當を行つた。即ち或る特別の部門に、豊富な蒐書を有してゐない限り、大體の見當は蔵書一千冊位までには、本分類表の第一段の十「類」に、一萬冊まで位には第二段の百「綱」に、而して十萬冊まで位には第三段の千「目」に、分類排列するものとした。而してこれには又、圖書の著者姓順排列といふことが、豫測さるべきであるから極端な詳密分類は過重視してゐないのである。

〔三〕圖書分類の效用といふことは、圖書館の機能——整備と運用——の上に於て、效果的であることである。無論これは圖書館の管理者にも、利用者にも双方にとつての問題であらねばならぬ。本分類表が第三段本位であることは、現在の大多數の圖書館の規模からして、之を以て最適と觀たからである。例へば請求番號に於て、それが三數字を以て足ることは、書庫に圖書を求むる出納手にとつて又目録から之を圖書室に記入する讀者にとつて、全く双方に對してである。また日本では分類表の適用は、目録の編成上に及ぶのが、現在の實情である。従つて分類表と記號とは、それが實際的價値に於て、對應して思考されねばならぬ。

**事項の排列順序** 次に本分類表に於て、事項の順序排列の上に「明確」を期したことに就て、一言してみやう。元來デュウイー氏の十進法そのもの、類綱其他の配置には、歐米では餘程以前から、非難されてゐる。その排列の順序といふことにも、異論が在り得るが、寧ろ配分の不等といふことの方が、缺點としては大きいのである。單に第一段の「類」の配置についてみるも、所謂社會科學(300)に於ける過充は、その最も甚しいものであり、有用技術も窮した感ありと言ふべく、又これと反對の意味に於て、哲學と宗教との獨立、語學と文學との隔絶などは、可なり不都合とされてゐる所である。かゝる事實に徴し本分類表に於ては、D・C原案の300を、國家に關するものと、社會に就てのものとの二類に分け、純粹科學に對應する、應用科學の意味からして、醫學及び工學に類を與ふると同時に宗教と哲學、語學と文學とは各一類に、合併することとした。これで大體綱類の配置に於て、平均し得たものと思ふ。

元來、類綱の配分の均等といふことは、圖書分類表にとつては、最も考慮さるべき一要素であると信ずる。類綱の配當上の不平均は、分類觀念に於ける段階の混亂であり、而して分類表の上に於ては、事項の存在の不明といふ結果になる。例へば地圖の上での一村落が、それを包括する國よりも縣よりも、大きく取扱はれるやうなもので、檢索上錯覺に陥らざるを得ないのも當然である。即ち類、綱目の段階的組織には、相當した分類觀念が、均齊に行はれてゐなければならないのである。

次に十進分類表の基礎としての十の「類」について考へてみやう。本分類表に於ける主類の順序は、既記のやうな類の分離併合が招來した異動を除いては、大體はD・C原案のそれと殆ど同様であると見られ得やう。

	(D・C)	(本分類表)
000	一般圖書	同
100	哲學	同
200	宗教	國家
300	社會	同
400	語學	理學
500	科學	醫學・工學
600	技術	同
700	美術	同
800	文學	同
900	地誌・歴史	同

即ちD・C原案と「類」として全く記號を異にするのは、僅に三類に就てだけである。これ本分類表がD・Cを適用したためである。また是等の「類」の名稱も成るべく平易な言葉で、内容通りに表現することとした。これも通俗的として令名あるD・Cの、特色を探つたからである。故に類としての名稱が、軍事を附屬せしめて「社會科學」と言ふが如き不純さや、工業を容れずして「産業」と稱ぶがやうな不確さは、言葉の形式に拘むものとして之を避けた。今若し是等の缺點を認容して、強めて學的に端的な言葉で表現したいならば、政治—法律—軍事は國家科學、經濟—社會—教育は社會科學、理學は純粹科學、醫學—工學は應用科學、農業—工業は産業、美術—技藝は藝術、などといふ名辭を與へてもいいことになるであらう。

然し乍ら、斯うした不純や不正確を許容する位ならば、寧ろ分類は意圖の表現

といふ根本的建前からしては、左の如き文字を以て表示するの、一つの方法であらう。但し舊くさいやうだが、西洋の言葉では斯うゆふ端的な表現は、一寸難しいやうである。

000 總記	100 神明	200 治國
300 濟世	400 究理	500 厚生
600 利用	700 審美	800 興文
900 記録		

勿論、この他にも一層適切な言葉が在り得ることゝ思はれる。

**地理別の助記性** 本分類表が、D.C原案の機構を、ヨリ簡単にしたいといふことは、その数字の記憶的使用に依る、地理別及び國語別の助記性を、D.Cに於ける第二段の「綱」より、第三段の「目」に引下げ、而して常識的には兩者の相違を必要とせず、一致せしめてゐることである。従來我國の圖書館に於て、十進法を採用し乍ら斯る助記性を全然無視したのは、その文化の特殊的立場に即するの餘り、哲學、歴史、地誌其他のものに於て、第二段の「綱」での東洋、西洋の區別を必要とした結果、地理別その他の記憶的数字を以てする共通の記號が、甚だ困難とされたからであると思ふ。本分類表では、この傳統的觀念に即しての東西の二別は、これを存置すると共に、第三段の「目」に於て、地理別の助記性を大に活用することゝしたのである。左に示した地理別法は、圖書の分類上に於ける我國の特殊的の國情を考慮し、また圖書館の規模の現狀を酌量して、成るべく簡易な形式に依る、記憶的の共通利用を試みたものである。

〔一〕 第二段の綱に於て、日本と東洋と西洋とを區別し、更に西洋を目に於て國別とする場合〔日本と外國とを分立、更に外國を國別する場合も亦同じ〕

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 —            |               |
| 2 —            |               |
| 3 —            |               |
| 4 英            |               |
| 5 獨            |               |
| 6 佛            |               |
| 7 露 (其他ヨーロッパ洲) | (哲學、歴史、地誌、参照) |
| 8 米 (其他アメリカ洲)  |               |
| 9 埃 (其他アフリカ洲)  |               |

但し西洋諸國は第三段の「目」に於て、始めてその國別が施されるので、第二段の「綱」に於て行はれる日本、東洋、西洋の區別は、普通名詞(東洋哲學、外國法、或は支那文學の如く)として、取扱はれてゐるのであるから、其間に記號の共通性は殆ど認められてゐない。また既記の如く國別と言語別との、二種あることも必要とされてゐないのである。

〔二〕 同一の綱中の第三段の目に於て、日本と外國とを對立して、更に外國を國別とする場合

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 日本           |                  |
| 2 印度 (其他アジア洲)  |                  |
| 3 支那           |                  |
| 4 英            |                  |
| 5 獨            |                  |
| 6 佛            |                  |
| 7 露 (其他ヨーロッパ洲) |                  |
| 8 米 (其他アメリカ洲)  |                  |
| 9 埃 (其他アフリカ洲)  | (協會・學會<br>植民 参照) |

尙参考のため、第四段以下に於ける細別を、必要とされる場合のものを、附記して置くならば

〔一〕 印度以外のアジア洲オセアニア洲諸國

- 1 印度支那、シヤム、ビルマ、海峽殖民地
- 2 マレイ群島、スマトラ、ジャバ、フィリッピン諸島
- 3 オーストラリア、オーストララジア
- 4 メラネシア、(ミクロネシア)、ポリネシア、ハワイ諸島
- 5 ペルシヤ、アフガニスタン、ターキスタン、ペルチスタン
- 6 アジアトルコ、メソポタミア、アルメニア、シリア、
- 7 アラビア、オマン
- 8 アジアロシア、中央アジア、コーカサス
- 9 露地

〔二〕 露西亞以外のヨーロッパ洲諸國

- 1 イタリア
- 2 スペイン

- 3 スエツツル
- 4 ダニューブ諸國
- 5 オランダ
- 6 ホルトガル
- 7 ベルギー
- 8 瑞、諸、丁
- 9 バルカン諸國

## 〔三〕 米國以外のアメリカ洲諸國

- 1 北米、カナダ、ニューファウンドランド、ラブラドル
- 2 メキシコ、中央アメリカ、西印度諸島
- 3 南米、ブラジル
- 4 アルゼンチン
- 5 チリー
- 6 ボリビア
- 7 ペルー
- 8 コロムビア、ヴェネジュラ、ギイアナ
- 9 パラグアイ、ウルグアイ

## 〔四〕 埃及以外のアフリカ洲諸國

- 1 北埃及
- 2 アビシニア
- 3 モロツコ
- 4 アルゼリア
- 5 北中央アフリカ
- 6 南中央アフリカ
- 7 南アフリカ
- 8 マダガスカル
- 9 其 他

次に、第四段以下に於て試みらるべき、日本の時代別に就いて記すると

- 1 太古史、上古史
- 2 中古史（大化改新、奈良時代）
- 3 中古史（平安時代）
- 4 近古史（鎌倉、吉野時代）

- 5 近古史（室町、安土桃山時代）
  - 6 近世史（江戸時代）
  - 7 現代史（明治、大正、昭和——）
  - 8 ——
  - 9 ——
- （歴史・文學  
参照）

形式別重複 D. C 原案に於ては、所謂「總記」なるものは、「類」に一箇所づゝを附した外、「類」に附屬する「綱」の「總記」は、凡て第四段の「目」に於て、適宜これを設けることになつてゐる。即ち 300 は政治、法律、軍事、統計、經濟、社會、教育其他のものを包括しての、社會科學(?)に關してのものであつてその各々についての「總記」は、第四段の「目」に於て設置されるのである。然るに我國従來の圖書館で多く實施されてゐる所は、隨所第二段の「綱」に於て之を設けるのであつて、これは圖書館の規模の上からして、大體第四段の細分を避けやうとしたことが、一因である。尙また之に關聯して分類は多く目錄の編成上にも適用されてゐることを、考へねばならない。本分類表に於ても、斯る我國圖書館の實情に鑑み「總記」を第二段の「綱」に於て、試むることとしたのであるが、その統一ある使用に依つて、地理別に於けるが如く成るべく、記憶的の共通性を支持して利用上の至便を期することとした。

- 1 哲理、概論(政策・法規)
- 2 歴史的記述
- 3 關係學科
- 4 辭書、書目
- 5 叢書、全書
- 6 雜誌、會報
- 7 講演、論文
- 8 教科書類
- 0 特殊事項又は形式

即ち四は辭書であるから、204 は政治辭書（20 は政治、4 は辭書）の如し。

索引に就いて 圖書分類表に於ける索引の位置は、どこ迄も補足的意味に於て、價値を有するものである。曾てブラオン氏が、デニウイ氏の創案に成る「相關索引」に對して、批評を下したやうに、理論を無視して索引の利便に委屬しやう



といふことは、分類表の悪用であるに過ぎないのである。

既記の通り本分類表は、我が図書館界の實情からみて、第三段本位のものであるから、其の事項の數も壹千に止つてゐる。従つて微細な件名は、網羅してゐないのであるから、索引を利用しやうとするには、普通の斯種分類表に求むる程度の事項の歸屬に對して、疑念を生じた場合に此索引に據つて、解決の一助となすべく期待されてゐる。また本表中に記載された事項に對しては、若干の相似又は同意語も、附加されてゐる。

若し本表の索引に於て、求むる事項が得られない際には、その事項が地名、人名其他餘りに窮極的な微細な件名ではないかといふことを、再思する必要がある。而して簡單なる推理作用に依つて、その件名が附屬するであらう所、事項を求むるがよい。斯うした單純な推理は、初歩の分類作業の一部であつて、分類といふことに習熟する上からして、本質的に意義あることゝ考へられる。例へば「萬葉集」といふ件名は、本表の索引には掲げられてゐないのであるが、凡そ、分類された目録なり書架なりで、斯るものを求めやうとする人であるならば、それが日本文學の和歌であること位は、知るべきであらう。即ち本索引の五十音順に依つて、「和歌」なる事項について、檢索すれば之に對應する分類番號 8 2 3 が直ちに得らるゝのである。

尙また本索引中で、ゴチック文字(太文字)を以て、記載してある事項は、本表中には其の細別が記してあることを示す。即ち「機械工學」なる事項は、索引には太文字を以て掲げられ、本表中には「綱」として取扱はれ、十「目」に細別されてゐるが如きである。

本索引は細密分類の結果として、件名が網羅的に記載され、總表に對しては器械的相關的のみに、因由するものとは異つてゐる。また分類の根本的觀念として事項の存在を成るべく單一化せしめてあるから、同一事項に對する所謂關連性なるものは、努めて避けるやうにしてある。これ分類表そのものゝ、簡明化であると同時に、索引の單純化であらねばならぬ。

## II 分類表の適用

**本表を活用するには** 分類表を適用して、個々の圖書を分類すると言ふことは、一口に言へば、意圖の現はれであるところの或る表中の事項に、それと對應する意圖の表示であるところの、圖書の主題を該當せしめるの作業である。

それには言ふまでもなく、既記の如き本表の組織について習熟することを、先づ必要とする。斯くする事には、本分類表は第三段本位であり、單純な助記性を有する簡明な十進法であるから、甚だ容易であると信ずる。即ち最初に第一段の十の類について名稱と記號を暗記すると共に、その内容についても深く理解すべきである。以下、第二段の「綱」及び第三段の「目」に對しても、亦同様に修得されて行くべきである。索引に依つて綱目を求めた場合には、單に器械的作業を以て終らず、當該の綱目につきモット廣い意味に於て、内容的にも通曉するやうに心懸けることが肝要であらう。

かくて本表に依り、實際に圖書の分類に當ることゝなるが、此際に緊要とする事は、其書の主題が何であるかを、先づ認知することである。而して主題を知ることとは作者の意圖を知ることであらねばならぬ。従つて、單なる主題のみに依る皮相的の分類は、最も戒心せられねばならない。斯る意味に於ての、分類作業の實際には、凡そ左記の如き順序方法が採らるべきものである。

- 〔一〕 主題は普通に圖書の標題紙に記載された書名に依つて知るのであるが、尙それを一層確實にするため、作者の意圖なるものについて、的確に認むる必要がある。
- 〔二〕 此の意圖を認識するには、圖書の内容目次に就いて檢討する。目次の無い場合には各章の題目、又は欄外の見出等を見る。
- 〔三〕 序言に對しても、之に目を通すことはその意圖を知る上に於て、時に絶對的の信用は置けないこともあるが、可なり大切にである。場合に依り圖書の内容を、摘讀又は通覽してみねばならぬことも在り得る。
- 〔四〕 如上の諸方法に依つても、尙判断がつかない時には、權威ある解題書とか、代表的圖書館の印刷録目とか、その他の資料を參考して、決裁の一助とする。決して分類の決定に、性急であつてはならない。
- 〔五〕 これでも未だ判明しないならば、その方面の専門家の意見を徵するより致方ないのである。これは圖書の分類者として、無能者らしく耻しいことゝやうであるが、誤つた獨斷を後に至つて發見されることよりは、數等勝つてゐると言へやう。分類に當る者は常に謙讓であらねばならぬ。

**分類記號の指定** 既に圖書の主題が何であるか、又その主題に對應する分類表の事項が、何であるかが決定すると、茲に該圖書の分類記號(本分類表にては分類番號)が、指定される段取りとなる。分類番號といふのは分類表に在つては、事項を代表する記號であり、圖書に於ては圖書記號と合體して、請求記號なるもの

を形成するものである。即ち分類記號は「氏」であり、圖書番號は「名」であるとも、言ひ得やう。氏名を授けられて、始めて圖書は、圖書館又は文庫に於ける存在を、確認されたことになる。かく分類表に依つて、分類番號を指定するに當り、凡そ注意すべき事としては、次の諸項である。

〔一〕 分類は主題に依るべきであり、形式的名稱、又は書名中の附帶語句に煩はさるべきではない。例へば政治理論は政治に置いて、哲學には入れない。文學史は文學へであり歴史へではない。何故なれば理論とか歴史とかは、單に圖書を記述した内容の形式を示したもので、眞の主題は政治であり文學であるからである。

〔二〕 分類の決定には、圖書の主題に對應する所の、分類表中での成るべく制限的な事項に該當して之を行ふ。發火工業に就いての圖書なれば、それは類としての工業へではなく、又「綱」としての「化學工業」へでもなく、目の「發火工業」へ分類し、當該番號を與へなければならぬ。

〔三〕 一冊で二つの主題を取扱つたものは、初めの主題に依るが、後のものがヨリ重要なれば、勿論これに依つて分類されねばならぬ。

〔四〕 三つ以上の關連した意味の主題である場合には、其中の最も重要な主題に依るべきである。若し皆等しく重要であれば、全部を包括する一般的主題に依つて分類する。

〔五〕 或る特定の一地方に關してのみ、記述されてゐる圖書は、先づその主題に依つて分類し次にそれを地方別にする。

〔六〕 個人の全集及主題の範圍が限られてゐるもの、内容が年代的體系的叢書等は總括的に取扱ふが、獨立した著者と書名を持つ所の雜多な叢書は、各冊を夫々の主題に依つて分類する。

尙、分類作業中新しく附加された事項とか、分類上に特別の留意を要した項目等に對しては、セイヤース氏も指示してゐる通り、一種の控へとしての索引を複製して置くがよい。これは分類方針の一定不變を樹立する上から、將來の作業に對しても、寄與すること大であらう。同種の圖書はいつでも必ず、同一の項目に分類されることは、最も肝要とするからである。

終りに尙本分類法の將來の細目展開には、既述の第四段に於ける地理別、形式別、年代別等に對して、記憶的數字を使用する場合を除き、一般的細項の詳密分類には、寧ろ五十音順に依る件項の排列（記號は最初の文字を附す）を以て、實際の使用上には却つて、効果的であらうと信ずる。勿論適用者各自の意見に依つて、一層の理論的展開を續行れやうさことも、亦可能であるであらう。

## 簡明十進分類表

### SIMPLE DECIMAL CLASSIFICATION SUMMARY

#### —主 類 表—

0 門	總 記	一般書類	General works
1 門	神 明	宗教哲學	Religion, Philosophy
2 門	治 國	政治法律 軍 事	Politics, Law, Army
3 門	濟 世	經濟社會 教 育	Economics, Sociology, Education
4 門	究 理	理學數學	Natural science, Ma- thematics
5 門	厚 生	醫學工學	Medicin, Technology
6 門	利 用	農業工業	Agriculture, Manu- factures
7 門	審 美	美術音樂	Fine arts, Music
8 門	興 文	文學語學	Literature, Language
9 門	記 錄	歷史地理	History, Geography

一般書類

- 000 總記 General works
- 010 書目 Bibliographies
- 020 圖書館 Libraries
- 030 事典・年鑑 Encyclopaedias, year-books
- 040 隨筆・雜書 Miscellaneous works
- 050 叢書・全書 Complete works
- 060 新聞・雜誌 Newspapers, magazines
- 070 協會・學會 General Societies
- 080 博物館 Museums
- 090 希觀書 Rare books

宗教・哲學

- 100 宗教 Religion
- 110 神道 Shintoism
- 120 佛教 Buddhism
- 130 基督教 Christianity
- 140 哲學 Philosophy
- 150 日本哲學 Japanese
- 160 東洋哲學 Oriental
- 170 西洋哲學 Occidental
- 180 心理 Psychology
- 190 倫理 Ethics

政治・法律・軍事

- 200 政治 Politics
- 210 國家 States
- 220 行政 Administration
- 230 外交 Diplomacy
- 240 殖民 Colonization
- 250 法律 Law

- 260 內國法 Nippon
- 270 外國法 Other countries
- 280 軍事 Army and navy
- 290 統計 Statistics

經濟・社會・教育

- 300 經濟 Economics
- 310 生產・分配 Production, Distribution, Enterprise
- 320 交換・消費 Exchange, Consumption, Insurance
- 330 商業 Commerce
- 340 交通 Transportation, Communication
- 350 財政 Public finance
- 360 社會 Sociology
- 370 社會問題 Social problems
- 380 教育 Education
- 390 制度・實踐 Systems, Practice

理學・數學

- 400 理學 Natural science
- 410 數學 Mathematics
- 420 物理學 Physics
- 430 化學 Chemistry
- 440 天文學 Astronomy
- 450 地質學 Geology
- 460 古生物學 Paleontology
- 470 生物學 Biology
- 480 植物學 Botany
- 490 動物學 Zoology

醫學・工學

- 500 醫學 Medical science
- 510 基礎醫學 Anatomy, physiology, Pathology, pharmacy etc.,
- 520 臨床醫學 Internal medicine, surgery
- 530 工學 Technology
- 540 土木工程 Civil engineering
- 550 建築學 Architecture
- 560 機械工學 Mechanical engineering
- 570 電氣工學 Electrical engineering
- 580 鑛山工學 Mining metallurgy
- 590 造船工學 Maritime sciences

農業・工業

- 600 農業 Agriculture
- 610 農事・園藝 Cultivation, horticulture
- 620 畜產業 Animal industry
- 630 蠶業 Sericulture
- 640 林業 Forestry
- 650 水產業 Aquatic products industries
- 660 工業 Manufactures
- 670 化學工業 Chemical technology
- 680 製造工業 Other industries
- 690 家政 Domestic science

美術・音樂

- 700 美術 Fine arts
- 710 建築・庭園 Architecture, gardening
- 720 彫刻・工藝 Sculpture

- 730 書畫・骨董 Painting
- 740 印刷・寫真 Printing
- 750 技藝 Recreative arts
- 760 音樂 Music
- 770 演劇 Theater
- 780 娛樂 Amusements
- 790 運動 Sports

文學・語學

- 800 文學 Literature
- 810 日本文學 Nipponese literature
- 820 和歌・俳句 Poems, Verse
- 830 物語・小說 Fiction, novel
- 840 脚本・歌謠 Drama, Songs and ballads
- 850 支那文學 Chinese literature
- 860 外國文學 Foreign literature
- 870 語學 Language
- 880 日本語 Nipponese language
- 890 外國語 Foreign language

歷史・地誌

- 900 歷史 History
- 910 日本史 Nipponese
- 920 東洋史 Oriental
- 930 西洋史 Occidental
- 940 傳記 Biography
- 950 地誌 Geography
- 960 日本地誌 Nipponese
- 970 東洋地誌 Oriental
- 980 西洋地誌 Occidental
- 990 風俗習慣 Manners, customs

000 一般書類

- 001
- 002
- 003 郷土資料
- 004 委託書類
- 005 等ニ充ツ
- 006
- 007
- 008
- 009

010 書目

- 011 書誌學
- 012 書目(和)
- 013 同(漢)
- 014 同(洋)
- 015 出版目錄
- 016 展覽會目錄
- 017 解題・考證
- 018 製本術
- 019 藏書票

020 圖書館

- 021 報告・一覽
- 022 圖書館行政
- 023 管理法(整備)
- 024 同(運用)
- 025 建築・設備
- 026 圖書館宣傳
- 027 圖書館教育
- 028 藏書目錄
- 029 讀書法

030 隨筆・雜書

- 031 隨筆(日本人明治前)
- 032 同(日本人明治後)
- 033 同(支那人)
- 034 同(西洋人)
- 035 雜書(日本人明治前)
- 036 同(日本人明治後)
- 037 同(支那人)
- 038 同(西洋人)
- 039 其他

040 事典・年鑑

- 041 百科辭典
- 042 類書(總)
- 043 同(和)
- 044 同(漢)
- 045 同(洋)
- 046 故事起源
- 047 抄錄
- 048 索引
- 049 一般年鑑

050 叢書・全書

- 051 叢書(日本人明治前)
- 052 同(日本人明治後)
- 053 同(支那人)
- 054 同(西洋人)
- 055 全書(日本人明治前)
- 056 同(日本人明治後)
- 057 同(支那人)
- 058 同(西洋人)
- 059 其他

060 新聞・雜誌

- 061 新聞紙學・記者
- 062 出版事業・其他
- 063 新聞(日本)
- 064 同(東洋)
- 065 同(西洋)
- 066 雜誌(日本)
- 067 同(東洋)
- 068 同(西洋)
- 069 新聞索引・雜誌索引

070 協會・學會

- 071 日本
- 072 印度其他アジア洲
- 073 支那
- 074 英
- 075 獨
- 076 佛
- 077 露 其他ヨーロッパ洲
- 078 米 其他アメリカ洲
- 079 埃 其他アフリカ洲

080 博物館

- 081 社寺寶物館
- 082 教育博物館
- 083
- 084 科學博物館
- 085
- 086 產業博物館
- 087 美術博物館
- 088
- 089 歷史博物館

090 希臘書

- 091 古寫本・古版本(日本)
- 092 同(支那)
- 093 同(西洋)
- 094 絕版圖書
- 095 禁止圖書
- 096 卷物類
- 097 圖譜類
- 098 稿本
- 099 其他

100 宗教

- 101 概論
- 102 宗教史
- 103 宗教心理
- 104 叢書・書目
- 105 叢書・全書
- 106 雜誌・會報
- 107 講演・論文
- 108 教科書類
- 109 神話傳說

110 神道

- 111 神書・祝詞・祝
- 112 神社・神職・祭儀
- 113 神道論
- 114 日本神神
- 115 伊勢神宮
- 116 諸教派
- 117 大社・御嶽
- 118 金光・天理
- 119 黑住・大本其他

120 佛敎

- 121 經典・疏註・論說
- 122 寺院・僧侶・佛寺
- 123 三論・法相・律・華嚴
- 124 天台宗
- 125 眞言宗
- 126 禪宗
- 127 淨土宗
- 128 眞宗
- 129 日蓮宗

130 基督教

- 131 聖書・讚美歌・祈禱
- 132 教會・牧師・儀式
- 133 舊教
- 134 新教
- 135 救世軍其他團體
- 136 猶太教
- 137 マホメット教
- 138 モルモン教
- 139 其他

140 哲學

- 141 概論
- 142 東西哲學史
- 143 論理學
- 144 叢書・書目
- 145 叢書・全書
- 146 雜誌・會報
- 147 講演・論文
- 148 教科書類
- 149 文化問題

150 日本哲學

- 151 日本思想
- 152 國學
- 153 古代・中世
- 154 近代
- 155 儒學
- 156 道學
- 157 諸子
- 158 水戸學
- 159 現代哲學

160 東洋哲學

- 161 東洋思想
- 162 印度哲學其他
- 163 支那哲學
- 164 經書
- 165 儒學
- 166 道學
- 167 墨學
- 168 諸家
- 169 現代哲學

170 西洋哲學

- 171 古代
- 172 中世
- 173 近代・現代
- 174 英
- 175 獨
- 176 佛
- 177 露 其他ヨーロッパ洲
- 178 米 其他アメリカ洲
- 179 埃 其他アフリカ洲

180 心理

- 181 實驗心理
- 182 應用心理
- 183 比較心理
- 184 特殊心理
- 185 社會心理
- 186 變態心理
- 187 心靈學・迷信
- 188 性相學・ト古
- 189 記憶術其他

190 倫理

- 191 日本
- 192 東洋
- 193 西洋
- 194 國民道德
- 195 勸諭・詔書
- 196 武士道
- 197 修養・處世
- 198 心學・道論
- 199 禮式・作法

- 200 政治
- 201 概論
- 202 政治史
- 203 古代法制
- 204 辭書・書目
- 205 叢書・全書
- 206 雜誌・會報
- 207 講演・論文
- 208 教科書類
- 209 年鑑其他

- 210 國家
- 211 國家學
- 212 日本
- 213 天皇
- 214 議會
- 215 政黨
- 216 選舉
- 217 政府
- 218 立法
- 219 外國

- 220 行政
- 221 行政學
- 222 日本
- 223 中央行政
- 224 地方行政
- 225 都市行政
- 226 殖民地行政
- 227 官制・官吏・恩給
- 228 警察・監獄・戶籍
- 229 外國

- 230 外交
- 231 國際公法
- 232 同私法
- 233 條約
- 234 領事裁判
- 235 仲裁裁判
- 236 國際聯盟
- 237 國際會議
- 238 外交問題
- 239 其他

- 240 殖民
- 241 日本
- 242 印度 其他アジア洲
- 243 支那
- 244 英
- 245 獨
- 246 佛
- 247 露 其他ヨーロッパ洲
- 248 米 其他アメリカ洲
- 249 埃 其他アフリカ洲

- 250 法律
- 251 概論
- 252 法律史
- 253 法醫學
- 254 辭書・書目
- 255 叢書・全書
- 256 雜誌・會報
- 257 講演・論文
- 258 教科書類
- 259 法令(書式)

- 260 內國法
- 261 憲法
- 262 行政法
- 263 議院法・選舉法
- 264 裁判所構成法
- 265 訴訟法・登記法
- 266 刑法
- 267 民法
- 268 商法
- 269 判決令

- 270 外國法
- 271 羅馬法
- 272 印度 其他アジア洲
- 273 支那
- 274 英
- 275 獨
- 276 佛
- 277 露 其他ヨーロッパ洲
- 278 米 其他アメリカ洲
- 279 埃 其他アフリカ洲

- 280 軍事
- 281 武技
- 282 古代兵事
- 283 陸軍・制度・軍備・生活
- 284 同 兵器
- 285 同 兵員
- 286 海軍・制度・軍備・生活
- 287 同 兵器
- 288 同 兵員
- 289 戰史・戰記

- 290 統計
- 291 統計學
- 292 日本(一般)
- 293 人口統計
- 294 災害統計
- 295 社會統計
- 296 經濟統計
- 297 產業統計
- 298 其他統計
- 299 外國(一般)

- 300 經濟
- 301 概論
- 302 經濟史
- 303 社會主義其他
- 304 辭書・書目
- 305 叢書・全書
- 306 雜誌・會報
- 307 講演・論文
- 308 教科書類
- 309 年鑑其他

- 310 生產・分配・企業
- 311 人口
- 312 土地・地代
- 313 勞働・賃銀
- 314 資本・利潤
- 315 企業・經營
- 316 會社
- 317 組合
- 318 獨占・合同
- 319 勞働問題其他

- 320 交換・消費・保險
- 321 價值・價格・物價
- 322 貨幣・紙幣・匯兌
- 323 銀行・信託・金融
- 324 信用・手形・爲替
- 325 投資・投機・富籤
- 326 奢侈・貧窮
- 327 景氣・恐慌
- 328 貯蓄・貨殖
- 329 保險

- 330 商業
- 331 商業地理
- 332 商產品
- 333 貿易
- 334 賣買
- 335 市場・取引所
- 336 倉庫・稅關
- 337 簿記・算術・會計學
- 338 廣告・通信・會話
- 339 度量衡其他

- 340 交通
- 341 道路
- 342 鐵道
- 343 船舶
- 344 航空
- 345 自動車
- 346 電車
- 347 運送・配達
- 348 郵便
- 349 電信・電話・無電

- 350 財政
- 351 日本
- 352 國有・專賣
- 353 豫算
- 354 歲入
- 355 出賃
- 356 稅
- 357 關稅
- 858 地方財政
- 359 外國

- 360 社會
- 361 概論
- 362 社會學史
- 363 人種改良・產兒制限
- 364 辭書・書目
- 365 叢書・全書
- 366 雜誌・會報
- 367 講演・論文
- 368 教科書類
- 369 年鑑其他

- 370 社會問題
- 371 家族・結婚
- 372 兩性・婦人
- 373 生活・住宅
- 374 都市・農村
- 375 人種・階級
- 376 矯風事業(遊廓)
- 377 感化事業(犯罪)
- 378 救濟事業(貧民)
- 379 社會衛生

- 380 教育
- 381 概論
- 382 教育學史
- 383 教育心理
- 384 辭書・書目
- 385 叢書・全書
- 386 雜誌・會報
- 387 講演・論文
- 388 教科書類
- 389 青少年團

- 390 制度・實踐
- 391 幼稚園・天才教育
- 392 小學校・中學校
- 393 高等學校・大學
- 394 師範學校
- 395 專門學校
- 396 特殊教育
- 397 女子教育
- 398 社會教育
- 399 學校衛生

400 理 學  
 401 概 論  
 402 科 學 史  
 403 通 俗 科 學  
 404 辭 書·書 目  
 405 叢 書·全 書  
 406 雜 誌·會 報  
 407 講 演·論 文  
 408 教 科 書 類  
 409 圖 表 其 他

410 數 學  
 411 算 術  
 412 代 數  
 413 幾 何  
 414 三 角  
 415 解 析 幾 何  
 416 微 分 積 分  
 417 プロバビリテイー  
 418 對 數 表·算 數 表  
 419 和 漢 算 法·珠 算

420 物 理 學  
 421 力 學  
 422 水 力 學  
 423 氣 學  
 424 音 響 學  
 425 光 學  
 426 熱 學  
 427 電 氣 學  
 428 磁 學  
 429 分 子 論

430 化 學  
 431 理 論 化 學  
 432 實 驗 化 學  
 433 分 析 化 學  
 434 定 性 分 析  
 435 定 量 分 析  
 436 合 成 化 學  
 437 無 機 化 學  
 438 有 機 化 學  
 439 其 他

440 天 文 學  
 441 理 論 天 文 學  
 442 球 面 天 文 學  
 443 實 測 天 文 學  
 444 叙 述 天 文 學  
 445 天 文 地 理 學  
 446 應 用 天 文 學  
 447 年 代 學  
 448 曆 學·曆 書  
 449 圖 表·其 他

450 地 質 學  
 451 地 文 學  
 452 地 震 學·火 山 學·溫 泉 學  
 453 氣 象 學  
 454 地 層 學  
 455 岩 石 學  
 456 結 晶 學  
 457 礦 物 學  
 458 其 他  
 459 圖 譜·標 本

460 古 生 物 學  
 461 植 物  
 462 無 脊 椎 動 物  
 463 原 生 動 物·射 形 動 物  
 464 軟 體 動 物·貝 類  
 4 5 關 節 動 物·昆 虫 類  
 466 脊 椎 動 物·魚 類  
 467 爬 虫 類·兩 棲 類  
 468 鳥 類  
 469 哺 乳 類

470 生 物 學  
 471 比 較 生 物 學  
 472 生 命·原 生 論  
 473 種·進 化 論  
 474 遺 傳·優 生 學  
 475 人 種 學·人 類 學  
 476 先 史 時 代 考 古 學  
 477 顯 微 鏡 學  
 478 標 本 採 集  
 479

480 植 物 學  
 481 形 態·生 理·生 態  
 482 顯 花 植 物  
 483 雙 子 葉 類  
 484 單 子 葉 類  
 485 裸 子 植 物  
 486 隱 花 植 物  
 487 羊 齒 類  
 488 蕨 苔 類  
 489 菌 藻 類

490 動 物 學  
 491 形 態·生 理·生 態  
 492 無 脊 椎 動 物  
 493 原 生 動 物·射 形 動 物  
 494 軟 體 動 物·貝 類  
 495 關 節 動 物·昆 虫 類  
 496 脊 椎 動 物·魚 類  
 497 爬 虫 類·兩 棲 類  
 498 鳥 類  
 499 哺 乳 類

500 醫 學  
 501 概 論  
 502 醫 學 史  
 503 看 護 學  
 504 辭 書·書 目  
 505 叢 書·全 書  
 506 雜 誌·會 報  
 507 講 演·論 文  
 508 教 科 書 類  
 509 和 漢 古 方

510 基 礎 醫 學  
 511 解 剖 學  
 512 生 理 學  
 513 病 理 學  
 514 細 菌 學  
 515 醫 化 學  
 516 藥 學  
 517 衛 生 學  
 518 理 學 的 醫 療 法  
 519 治 療 法·強 健 法

520 臨 床 醫 學  
 521 診 斷 學·微 檢 學  
 522 內 科·精 神 病 科  
 523 外 科·整 形 外 科  
 524 皮 膚 科·泌 尿 生 殖 器 科  
 525 眼 科  
 526 耳 鼻 咽 喉 科  
 527 齒 科  
 528 產 婦 人 科·產 婆  
 529 小 兒 科

530 工 學  
 531 概 論  
 532 工 學 史  
 533 工 業 力 學·工 業 數 學  
 534 辭 書·書 目  
 535 叢 書·全 書  
 536 雜 誌·會 報  
 537 講 演·論 文  
 538 教 科 書 類  
 539 測 量·製 圖

540 土 木 工 學  
 541 設 計·材 料  
 542 鐵 道 工 學  
 543 道 路 工 學  
 544 橋 梁 工 學  
 545 隧 道 工 學  
 546 水 理 工 學  
 547 運 河 工 學  
 548 港 灣 工 學  
 549 衛 生 都 市 工 學

550 建 築 學  
 551 設 計·材 料  
 552 宮 殿  
 553 社 寺  
 554 住 宅  
 555 商 店  
 556 公 共 建 築 物  
 557 記 念 建 築 物  
 558 建 築 器 械 學  
 559 建 築 裝 飾

560 機 械 工 學  
 561 設 計·材 料  
 562 熱 機 關  
 563 蒸 氣 機 關  
 564 內 燃 機 關  
 565 氣 壓 機 關  
 566 水 力 機 械  
 567 航 空 機 工 學  
 568 自 動 車 工 學  
 569 昇 降 機 其 他

570 電 氣 工 學  
 571 測 定·材 料  
 572 發 電  
 573 送 電·配 電  
 574 照 明·電 熱  
 575 電 信·電 話(有 線)  
 576 同 步(無 線)  
 577 電 送 寫 真  
 578 電 氣 鐵 道  
 579 電 氣 應 用 器 具

580 鑛 山 學  
 581 鑛 山 衛 生  
 582 鑛 床 學  
 583 採 鑛 學  
 584 選 鑛·試 金  
 585 治 金 學  
 586 採 炭  
 587 採 油  
 588 石 材·寶 石  
 589 鑛 山 電 氣 工 學

590 造 船 學·海 事  
 591 設 計·材 料  
 592 船 用 機 關 學  
 593 船 渠  
 594 海 洋 氣 象·航 海 曆  
 595 航 海 術·運 用 術  
 596 水 路 測 量·水 先 案 內  
 597 信 號·標 識·燈 臺  
 598 遭 難 救 助  
 599 潛 水 其 他

- 600 農 業
  - 601 概 論
  - 602 產 業 史
  - 603 博 覽 會
  - 604 辭書·書目
  - 605 叢書·全書
  - 606 雜誌·會報
  - 607 講演·論文
  - 608 教科書類
  - 609 報告其他
- 610 農事·園藝
  - 611 氣象·土壤·肥料
  - 612 育種·種苗
  - 613 耕種·栽培—稻·麥·豆其他
  - 614 一茶·煙草其他
  - 615 一蔬菜
  - 616 一果樹
  - 617 一花卉
  - 618 農具·灌溉·園藝用品·溫室其他
  - 619 農產製造·園藝作物加工 其他
- 620 畜產業·養虫
  - 621 飼料·病疫
  - 622 實用家畜
  - 623 馬·牛·豚·羊
  - 624 愛玩家畜
  - 625 犬·貓·猿
  - 626 養 禽
  - 627 畜產製造
  - 628 養蜂·養虫
  - 629 獸 醫 學
- 630 蠶 業
  - 631 蠶業理科學
  - 632 病害·保護
  - 633 蠶 種
  - 634 養 蠶
  - 635 栽 桑
  - 636 繭 繅
  - 637 蠶 絲
  - 638 製 絲
  - 639 蠶室·蠶具
- 640 林業·鑛業
  - 641 森林理化學
  - 642 造林·植林
  - 643 森林保護
  - 644 森林土木
  - 645 森林利用
  - 646 鑛業—金·銀·銅·鐵
  - 647 一石 炭
  - 648 一石 油
  - 649 鑛毒問題

- 650 水產業·漁業
  - 651 水產理化學
  - 652 漁具·漁船
  - 653 漁 業
  - 654 養 魚
  - 655 養 貝
  - 656 海 草
  - 657 捕 鯨
  - 658 水產製造業
  - 659 鹽 業
- 660 工 業
  - 661 概 論
  - 662 工 業 史
  - 663 工場管理
  - 664 辭書·書目
  - 665 叢書·全書
  - 666 雜誌·會報
  - 667 講演·論文
  - 668 教科書類
  - 669 發明·特許
- 670 化學工業
  - 671 藥品工業
  - 672 電氣化學工業
  - 673 發火工業
  - 674 飲食物工業
  - 675 油脂工業
  - 676 燈火工業
  - 677 硫酸工業
  - 678 染料塗料工業
  - 679 化粧品其他
- 680 製造工業
  - 681 金屬工業
  - 682 鐵 工 業
  - 683 木材工業
  - 684 皮革工業
  - 685 製紙工業
  - 686 纖維工業
  - 687 コム工業
  - 688 手工工業
  - 689 其 他
- 690 家 政
  - 691 家事經濟
  - 692 家庭醫事
  - 693 出產·育兒
  - 694 料理·製菓
  - 695 裁縫·手藝
  - 696 衣服·洗濯
  - 697 化粧·仕度
  - 698 日用理化學
  - 699 家庭教育

- 700 美 術
  - 701 概 論
  - 702 美 術 史
  - 703 美學·藝術論
  - 704 辭書·書目
  - 705 叢書·全書
  - 706 雜誌·會報
  - 707 講演·論文
  - 708 教科書類
  - 709 圖譜其他
- 710 建築·造庭
  - 711 建 築
  - 712 日 本
  - 713 外 國
  - 714 室內裝飾
  - 715 造 庭
  - 716 日 本
  - 717 外 國
  - 718 盆 栽
  - 719 公園·墓地
- 720 彫刻·工藝
  - 721 彫 刻
  - 722 東 洋
  - 723 西 洋
  - 724 工 藝
  - 725 金屬工藝
  - 726 織物工藝
  - 727 漆器·蒔繪
  - 728 陶器·磁器
  - 729 其 他
- 730 書畫·骨董
  - 731 書法·書論
  - 732 書譜(金石)
  - 733 書法·書論
  - 734 日 本 畫
  - 735 支 那 畫
  - 736 西 洋 畫
  - 737 圖案·裝飾
  - 738 篆刻·印譜
  - 739 文 房 具
- 740 印刷·寫真
  - 741 木 版
  - 742 印 字
  - 743 印 刷
  - 744 機 械·材料
  - 745 寫 真
  - 746 特殊用法
  - 747 寫真帖(日本)
  - 748 同 (外國)
  - 749 幻 燈

- 750 技 藝
  - 751 概 論
  - 752 技 藝 史
  - 753 趣味·道樂
  - 754 辭書·書目
  - 755 叢書·全書
  - 756 雜誌·會報
  - 757 講演·論文
  - 758 教科書類
  - 759 プログラム
- 760 音 樂
  - 761 日本音樂
  - 762 舊(雅樂·能樂)
  - 763 新(唱歌·新樂)
  - 764 東洋音樂
  - 765 西洋音樂
  - 766 器 樂
  - 768 聲 樂
  - 769 樂劇·歌劇
  - 769 蓄音機·ラヂオ
- 770 演 藝
  - 771 演能·能評
  - 772 演劇·劇評
  - 773 劇場·舞臺
  - 774 衣裳·道具
  - 775 歌 劇
  - 776 舞 踊
  - 777 舞 踏
  - 778 俄·茶番·寄席
  - 779 活動寫真·發聲映畫
- 780 娛 樂
  - 781 茶 道
  - 782 花 道
  - 783 香 道
  - 784 盆石·盆畫
  - 785 圍碁·將棋
  - 786 撞 球
  - 787 カルタ·トランプ
  - 788 雙六·手品
  - 789 曲藝其他
- 790 運 動
  - 791 體操·遊戲
  - 792 陸上競技
  - 793 球 技
  - 794 水上競技
  - 795 競馬·馬術
  - 796 相撲·拳闘
  - 797 狩獵·釣魚
  - 798 スキー·スケート
  - 799 登山·キャンプ

200 文學

- 801 概論
- 802 世界文學史
- 803 修辭學
- 804 辭書・書目
- 805 叢書・全書
- 806 雜誌・會報
- 807 講演・論文
- 808 教科書類
- 809 書籍文其他

810 日本文學

- 811 合集
- 812 漢文
- 813 漢詩
- 814 評論
- 815 日記・紀行
- 816 隨筆・感想
- 817 滑稽文學
- 818 警句・佳句・諺
- 819 雜文學

820 和歌・俳句

- 821 合集
- 822 歌話・歌論
- 823 和歌・歌集
- 824 連歌・狂歌
- 825 俳話・俳文
- 826 俳句・句集
- 827 川柳・狂句
- 828 詩話・詩論
- 829 詩集

830 物語・小説

- 831 上古
- 832 奈良朝時代
- 833 平安朝時代
- 834 鎌倉
- 835 室町
- 836 江戸
- 837 明治以後(三集)
- 839 講談・落語

840 脚本・歌謡

- 841 詞曲・謠曲・狂言
- 842 淨瑠璃丸本
- 843 新無技奏本
- 844 演劇・脚本(全集)
- 845 同(別集)
- 846 歌劇・脚本
- 847 映畫・脚本
- 848 俗曲・琴歌
- 849 俚謠・民謠

850 支那文學

- 851 論說
- 852 尺牘
- 853 文集
- 854 金石文
- 855 滑稽
- 856 詩・詩話
- 857 小說
- 858 戲曲
- 859 時文

860 外國文學

- 861 ギリシヤ・ラテン文學
- 862 印度 其他アジア洲
- 863 東洋文學
- 864 英
- 865 獨
- 866 佛
- 867 露 其他ヨーロッパ洲
- 868 米 其他アメリカ洲
- 869 埃 其他アフリカ洲

870 語學

- 871 概論
- 872 言語學史
- 873 世界語
- 874 辭書・書目
- 875 叢書・全書
- 876 雜誌・會報
- 877 講演・論文
- 878 教科書類
- 879 演說・速記術・點字

870 日本語

- 881 文典
- 882 文字・音韻
- 883 假名遣・發音
- 884 語格・語法
- 885 語源・語釋
- 886 俗語・方言
- 887 ローマ字
- 888 新領土語
- 889 外來語

890 外國語

- 891 ギリシヤ語・ラテン語
- 892 印度 其他アジア洲
- 893 支那語
- 894 英
- 895 獨
- 896 佛
- 897 露 其他ヨーロッパ洲
- 898 米 其他アメリカ洲
- 899 埃 其他アフリカ洲

900 歷史

- 901 概論
- 902 世界史
- 903 考古學・古錢學
- 904 辭書・書目
- 905 叢書・全書
- 906 雜誌・會報
- 907 講演・論文
- 908 教科書類
- 909 歷史地圖

910 日本史

- 911 太古・上古
- 912 中古
- 913 中古
- 914 近古
- 915 近世
- 916 明治
- 917 現代
- 918 地方史
- 919 新領土史

920 東洋史

- 921 通史
- 922 印度 其他アジア洲
- 923 支那史(太古・上古)
- 924 同(中古・近古)
- 925 同(近世)
- 926 同(現代)
- 927 青海・西藏
- 928 滿蒙・西伯利
- 929

930 西洋史

- 931 西洋史(古代)
- 932 同(中世)
- 933 同(近代)
- 934 英
- 935 獨
- 936 佛
- 937 露 其他ヨーロッパ洲
- 938 米 其他アメリカ洲
- 939 埃 其他アフリカ洲

940 傳記

- 941 系譜・紋章
- 942 皇室
- 943 日本人(叢傳)
- 944 同(各傳・古人)
- 945 同(各傳・今人)
- 946 東洋人(叢傳)
- 947 同(各傳)
- 948 西洋人
- 949 逸話其他

950 地誌

- 951 概論
- 952 世界地誌
- 953 地圖學
- 954 辭書・書目
- 955 叢書・全書
- 956 雜誌・會報
- 957 講演・論文
- 958 教科書類
- 959 漂流記・探險記

960 日本地誌

- 961 紀行(案内記)
- 962 關東・奥羽
- 963 中部・近畿
- 964 中國・四國
- 965 九州・沖繩
- 966 北海道・樺太
- 967 臺灣・南洋
- 968 朝鮮
- 969 地圖(里程表)

970 東洋地誌

- 971 紀行(案内記)
- 972 印度 其他アジア洲
- 973 支那
- 974 北部
- 975 中部
- 976 南部
- 977 青海・西藏
- 978 滿蒙・西伯利
- 979 地圖(里程表)

980 西洋地誌

- 981 紀行(案内記)
- 982 地圖(里程表)
- 983 兩極
- 984 英
- 985 獨
- 986 佛
- 987 露 其他ヨーロッパ洲
- 988 米 其他アメリカ洲
- 989 埃 其他アフリカ洲

990 風俗・習慣

- 991 日本
- 992 年中行事
- 993 服飾・調度
- 994 婚禮・出産
- 995 祝賀・葬儀
- 996 遊廓・花街
- 997 新領土風俗
- 998 官儀其他
- 999 外國



## 児童圖書分類表について

児童圖書の分類法、といふことに就いては、従来餘り論議されてゐないやうである。

これは言ふ迄もなく、大人向きの一般圖書に比すると、児童圖書そのもの性質が餘程簡單で、喧しく分類などを詮議立てして、面倒なものにする必要もないと、いふことからでもあらう。事實、最近我國の公共圖書館に於ても、児童室の經營は盛になつて來ただけから、児童圖書の取扱ひも亦、皆獨自の考究に依つて實行されてゐることに、疑ひはないのである。タダ茲に留意すべき事は、一般の圖書の分類法に或る基準の必要あるが如く、児童圖書のそれに就いても、成るべく適當した一つの型といふやうなものを、求めることが可なり必要であると信ずる。而して児童圖書の分類法としては、凡そ左の三つの特徴を、持つてあらうことが思はれる。

一、児童圖書分類法は一般圖書分類法と、或る程度の連絡を保つこと、

これは明に児童室が、公共圖書館に附設經營される本來の意義から、因つて來るものであり、圖書館が少年から成年、而して晩年に至る迄を通じて、一貫的に讀書の道場たらしむべき上に於て、當面の所置と言はなければならぬ。

小學校の學級文庫が、多く児童の知能本位の點からして、學級別に分類するのは、事情を異にするものと言ふべく、適當に一般圖書の分類法を簡易化した所の形式に於て、而も児童圖書として必要な事項を、成るべく平易に表現することが大切である。

二、理論分類式でなく、成るべく事項網羅的であること

これは理論的な分類觀念を以てする縦の分類法より、児童の要求する所の事項について、網羅する横の分類法であることをいふので、たゞそれが漫然と或は又字音順などに排列されるといふことではなく、最簡易の形式に於て一般圖書の分類法に従つて、排列按配さるべきであると考へる。これでは理論的分類の香ひが稀薄となるであらうが、児童にはそれで十分であらう。事項の選擇採用も、亦必要といふことを主眼にした所の、至つて限界的のもの許りでいい。

三、事項の表現には児童に親しみのある平易な言葉を以てすること

児童の慣用語は、勿論大人のそれに比すると範圍も極めて狭少であり、また其趣を異にするものである。成るべく説明を要せずして、直ちに児童の了解し得る

語を以て、分類の事項を表示することが大事である。要するに、児童圖書の分類法としては、端的といふことが要諦であらう。求むるものに對して、手数を要し或は児童を感はし困らせることは、圖書館に児童を慣れしめない最大の原因となるであらう。

茲に問題となるのは、児童圖書なるものゝ、範圍に就てである。東京市の京橋圖書館では、幼年圖書、小學一、二年圖書、児童圖書、中間讀物の凡そ四種に別けてゐる。此内の児童圖書は小學三、四、五、六年向きのもの、中間讀物といふのは、小學を卒業した者を目標としたものである。また日比谷圖書館、大橋圖書館等に於ては、幼年圖書、児童圖書の二種に大別してゐる。

之を要するに児童圖書の範圍は、児童そのものゝ知能の發達に、嚴重な制限を以て臨み得ない如く、極端に限界的であることは到底不可能である。また自由な個性の、伸長を期待する圖書館的教育としても、それを決して望まないものである。如上の理由に依り、左に示した児童圖書分類表は、小學校生徒の讀物を標準として、これに簡明十進分類法を適應せしめたもので、大體小學適齡以下の児童に對しての、幼年圖書の分類表は、竹内善作氏の立案にかゝる、大橋圖書館現行のものを、多少順序を移動して掲ぐることにする。

### 幼年圖書分類表

- ◇ 叢書
- ◇ 調話、寓話、宗教譚
- ◇ 全科參考書
- ◇ 理科譚
- ◇ 算術
- ◇ 機械譚
- ◇ 農業、工業、商業譚
- ◇ おもち・繪、繪畫
- ◇ 國語及外國語讀本
- ◇ お伽噺（傳記を含む）
- ◇ 歴史譚、お伽地理

## 少年圖書分類表

030	百科辭典	700	繪畫
			(圖案)
050	雜誌		(漫畫)
100	神話	770	音樂
190	修身・行儀		(唱歌)
210	政府	780	技藝
280	陸軍・海軍		(手工)
	(戰爭物語)	800	小説・童話
340	電信・電話・ラジオ	840	童話・童話劇
			(對話)
380	學習書	880	讀本・讀方・綴方
	(受験・自修)		(作文)
400	理科	900	歴史
410	算術		(世界歴史)
420	物理・電氣	910	日本歴史
430	太陽・月・星	920	東洋歴史
450	地球・地震	930	西洋歴史
480	木・草・花	950	地理
			(世界地理)
490	歌・鳥・魚・虫	960	日本地理
	(動物物語)		東洋地理
500	工學	970	西洋地理
	(機械・船舶・飛行機)	980	風俗・習慣
600	農工業	990	
	(發明物語)		

## 簡明十進分類表

## 索引

## 注意

◇ 假名遣は總て下記ゴジツク字體のものに統一する

イ	キ	ニウ	ニフ、ニユウ
エ	エ	ニヨウ	ニヤウ、ネウ、ネフ
オ	ヲ	ノウ	ナウ、ナフ、ノフ
オウ	アウ、アフ、オホ、ワウ	バ	ヴァ、ヅ
カ	クワ	ビ	ヅイ、ギ
キウ	キフ、キユウ	ヒヨウ	ヒヤウ、ヘウ
キヨウ	キヤウ、ケウ、ケフ	ホ	ゾオ、ヅ
コウ	カウ、カフ、クワウ、コフ	ホウ	ハウ、haf、ホフ
ジ	ヂ	ミヨウ	ミヤウ、メウ
シウ	シフ、シユウ	モウ	マウ
シヨウ	シヤウ、セウ、セフ	ユウ	イウ、イフ
ズ	ヅ	ヨウ	エウ、エフ、ヤウ
ソウ	サウ、サフ	リウ	リフ、リユウ
チウ	チフ、チユウ	リヨウ	リヤウ、レウ、レフ
チヨウ	チヤウ、デウ、テフ	ロウ	ラウ、ラフ
トウ	タウ、タフ、トフ		

◇ 長音符を用ひるカー、シー、トー等はカア、シイ、トオの如くア・イ・ウ・エ・

オの假名順に排列する。

**ア**

アジア洲  
 -(歴史) 922  
 -(地誌) 972

アフリカ洲  
 -(歴史) 939  
 -(地誌) 989

編物 695

アメリカ洲  
 -(歴史) 938  
 -(地誌) 938

アメリカ合衆國  
 -(歴史) 938  
 -(地誌) 988  
 -(文學) 868

案内記  
 -(日本) 961  
 -(東洋) 971  
 -(西洋) 981

**イ**

醫化學 515

醫學 500  
 -史 502  
 -(基礎) 510  
 -(臨床) 520

イギリス  
 -(歴史) 934  
 -(地誌) 984  
 -(文學) 864

育兒 693

育種學 612

園藝 785

衣裝 774

伊勢神宮 115

イタリー  
 -(歴史) 937  
 -(地誌) 987  
 -語 897  
 -文學 867

逸話 949

遺傳 474

犬 625

稻 613

衣服 696

\* 移民 240

隠花植物 486

印刷 743  
 -器械・材料 744

印字機 742

飲食物工業 674

印度-(歴史) 922  
 -(地誌) 972

-語 892

-文學 862

-哲學 162

印語 733

因明 120

**ウ**

\* 浮世繪 731

\* 兎 623

牛 623

\* 語 762

馬 623

\* 占ひ 183

運河工學 547

運送 347

運動 750

\* 運輸 340

運用術 595

**エ**

\* 映畫 779

英語 864

衛生學 517

衛生及都市工學 549

\* 英文學 864

\* 液體 422

**エジプト**  
 -(歴史) 939  
 -(地誌) 989

\* エスベラント 873

\* エレベーター 569

鹽業 659

演藝 770

園藝  
 -(用品) 618  
 -(作物加工) 613

演劇 772

演説 879

演能 771

**オ**

\* 應用化學  
 -(全般) 439

應用心理 182

應用天文學 446

**オセアニア洲**  
 -(歴史) 922  
 -(地誌) 972

\* 踊 776

\* オペラ 768

\* オルガン 765

\* オランダ語 897

\* オリムピック  
 競技大會 726

織物工藝 726

音韻  
 -(日本) 882

\* 陰陽學 188

音樂  
 -日本 761  
 -東洋 764  
 -西洋 765

恩給 227

音響學 424

温室 618

温泉學 452

**カ**

\* 海運 343

\* 繪畫 733

\* 階級問題 375

海軍 286

會計學 337

外交 230

外交問題 238

外國語 890

外國統計 299

外國文學 860

外國法 270

海事 590

會社 316

解析幾何 415

海草 656

解題 017

解剖學 511

海洋氣象 594

外來語 889

貝類 494

化學 430

化學工業 670

雅樂 762

價格 321

花街 936

花卉 617

佳句 818

學會 070

學校衛生 399

歌劇 775

-(音樂) 768

火山學 452

歌集 823

家事經濟 691

果樹 616

貨殖 328

\* 瓦斯工業 676

家政 630

\* 化石學 460

\* カソリック教 133

家族問題 371

價值 321

\* 家畜 622

活動寫眞 779

\* 活版 743

家庭醫事 692

家庭教育 699

花道 782

假名遣(日本) 883

畫法 733

歌舞伎(臺本) 843

貨幣 322

談話 840

\* 硝子工業 677

\* 唐手術 281

\* 花柳界 376

\* -病 524

毒論 733

\* 火力發電 572

カルタ 787

歌論(日本) 822

歌話(日本) 822

爲替 324

眼科 525

油漉 618

感化事業 377

看護學 503

喫煙 278

官制 227

關稅 357

岩石學 455

關節動物 495

感想(日本) 816

觀相學 188

價造 322

\* 寒帯植物 481

\* 神主 112

漢文(日本人) 812

漢詩  
 (日本人) 813

\* 漢文(支那人) 850

\* 刊本 031

官吏 227

**キ**

氣壓機關 565

球技 793

救濟事業 378

\* 救世軍 135

宮殿建築 552

救貧事業 378

球面天文學 412

記憶術 189

棋會 214

議院法 253

幾何 413

機械工學 560  
 -設計・材料 561

\* 汽機車 563

器樂 766

氣學 423

企業 315

氣球 567

技藝 750  
 -史 752

紀行  
 -(日本) 961  
 -(東洋) 971

-(西洋) 931

希臘書 090

儀式 132

記者 051

氣象學 413

基礎醫學 510

\* 氣體 423

祈禱 131

紀念建築物 557

脚本  
 -(戲曲) 844  
 -(歌劇) 846  
 -(映畫) 844

キヤムプ 799

教育  
 -史 332  
 -心理 333

狂歌 824

協會 070

教會 132

狂句 824

狂言 841

強健法 519

恐慌 327

\* 共產主義 303

行政  
 -學 221  
 -法 252

矯風事業 376

\* 郷土資料 030

\* 經文 121

橋梁工學 544

曲藝 789

塗業 653

漁具 652

漁船 652

魚類 466

ギリシヤ  
 -語 891  
 -文學 861

基督教  
 -舊教 133  
 -新教 134

\* 金 586

\* 銀 585

釣魚 797

銀行	323	* 結婚式	994	考證	017
禁止圖書	095	—問題	371	鑄床學	582
金石	732	結晶學	456	工場管理	663
* 金石學	454	顯花植物	482	合成化學	436
金石文(支那)	854	原生動物	493	講談	839
菌藻類	489	* 劍術	281	* 紅茶	614
金屬工業	681	建築	710	交通	340
金融	323	—日本	712	香道	783
		—外國	713	合同	318
<b>ク</b>		建築學	550	高等學校	393
* 公物制度	203	—設計・材料	551	鑄毒	649
* 草花	616	—機械學	558	* コーヒー	614
句集	826	建築裝飾	559	鑄物學	457
* 果物	615	學問	796	稿本	098
組合	317	幻燈	749	* 孔孟學	163
黒住教	119	顯微鏡學	477	港灣工學	548
* 桑	635	憲法	261	語格(日本)	884
* 軍艦	285			語學	870
群集心理	185	<b>コ</b>		—史	872
軍事	280	* 葦	785	* 五經	164
		公園	719	國學	152
<b>ケ</b>		航海術	595	—古代・中世	153
經營	315	航海曆	594	—近代	154
景氣	327	光學	425	* 國語	880
警句	818	工學	530	國家	210
經濟	300	—史	532	—學	211
—史	302	交換	320	國際公法	231
經濟統計(日本)	296	公共建築物	555	—私法	232
警察	228	工業		國際聯盟	236
硫酸工業	677	—政策	660	—會議	237
齒術論	703	—經濟	660	* 國文學	810
經書	164	—史	662	* 國法學	251
* 形而上學	170	工業數學	533	* 國防	280
經典	121	—力學	533	國民道德	195
競馬	795	航空	344	* 穀物	613
刑法	266	航空機	567	國有	352
系譜	941	工藝	724	露源(日本)	835
* 刑務所	228	考古學	903	* 小作問題	319
外科	523	廣告	338	語釋(日本)	885
劇場	773	公債	355	古寫本	
劇評	772	鑛山學	587	—(日本)	091
華燈	123	—電氣工學	589	—(東洋)	092
化粧	697	鑛山衛生	581	—(西洋)	093
化粧品工業	679	* 高山植物	481	—索引	069
* 下水工事	549	皇室	942	雜書	
		* 耕種學	613	—(日本人明治前)	035
				古生物學	460

戶籍	228	—(日本人明治後)	036	* 四書	164
古錢學	903	—(支那人)	037	市場	335
* 古代天文學	448	—(西洋人)	038	地質學	452
古代兵事	282	作法	199	思想問題	149
古代法制	203	* 砂防工事	546	仕度	697
滑稽文學(日本)	814	三角	414	地代	312
* 骨相學	188	蠶業		* 質屋	323
骨董	730	—理化學	631	* 七面鳥	626
* 小鳥	626	—病疫・保護	632	漆器	727
古版本		產業史	602	* 失業	319
—(日本)	091	—統計(日本)	297	實驗化學	432
—(支那)	092	—博物館	033	實驗心理	181
—(西洋)	093	* 三枝樂	762	實測天文臺	443
ゴム	614	蠶糸	637	室內裝飾	714
—工業	687	蠶室・蠶具	639	自動車	345
* 古文書學	903	蠶種	633	—工學	538
* 曆	448	産兒制限	363	支那	
娛樂	780	算數表	418	—史(太古・上古)	923
婚禮	994	* 參譯	126	—(中古・近古)	924
金光教	118	算術	411	—(近世・現代)	925
		産婆	528	—地誌	973
<b>サ</b>		讚美歌	131	—(北部)	974
災害統計(日本)	294	産婦人科	523	—(中部)	975
細菌學	514	三論	123	—(南部)	976
祭儀	112			—語	892
採礦	646	<b>シ</b>		—文學	850
—學	583	事彙	040	—哲學	160
歲入出	354	寺院	122	支那畫	735
財政	350	獸醫學	629	* 芝居	772
—(日本)	351	習慣	990	師範學校	394
—(外國)	359	宗教	100	耳鼻喉科	526
裁榮	635	—史	102	時文	856
栽培	613	—哲學	101	紙幣	322
裁判所構成法	264	—心理	103	シベリア	
裁縫	695	修辭學	803	—[歷史]	928
* 催眠術	189	住宅建築	554	—[地誌]	978
索引	048	—問題	373	資本	314
* 作文	803	修養	197	社會	360
* 作物病害	611	* 鹽	659	—社會學史	362
雜誌		商科	527	—問題	370
—(日本)	066	磁器	728	—衛生	379
—(東洋)	065	磁氣學	428	—心理	185
—(西洋)	068	式辭	879	—教育	398
—索引	069	詞曲	841	* 社會主義其他	303
雜書		試金	584	* 社會事業	376
—(日本人明治前)	035	詩集	829	社會統計	295

射形動物	493	* 照明工業	676	診醫學	521
奢侈	326	小説	820	神道	110
寫眞		* 醸造工業	674	—論	113
—特殊用法	746	小兒科	529	* 審美學	703
—帖〔日本〕	747	少年團	389	新聞	
—同〔外國〕	748	消費	320	—學	051
社寺建築	553	商品	532	—史	062
* 寫本	091	商法	268	—新聞〔日本〕	063
* ジャーナリズム	061	照明	574	—〔東洋〕	064
儒學		條約	233	—〔西洋〕	065
—〔日本〕	155	抄巻	047	—索引	069
—〔支那〕	165	淨瑠璃丸本	842	信用	324
祝賀	995	職業問題	319	心理	180
手工業	688	植物學	480	新領土	
* 朱子學	165	* —採取	481	—語	888
手藝	695	* —同	480	—史	919
出產	994	植民	240	—風俗	990
出版	062	植民地行政	226	森林土木	644
—目錄	015	* 食物	694	—保護	643
種苗	612	植林	642	—利用	645
趣味	753	女子教育	397	* —理化學	641
狩獵	797	—青年團	381	人類學	475
書論文	801	書誌學	011	心靈學	187
諾子〔日本〕	157	處女會	389	神話	109
—〔支那〕	163	書法	731		
* 書式	259	書目	010	ス	
叙述天文学	444	—〔和〕	012	圖案	737
處世	197	—漢〕	013	水産業	650
書譜	732	—〔洋〕	014	—政策・經濟	650
書論	731	* 神學	101	—理化學	651
書畫	730	心學	198	水産製造	658
唱歌	763	進化論	473	* 水車	566
小學校	392	信號	597	水上蒸技	794
將棋	785	人口	311	隧道工學	545
商業	330	—統計〔日本〕	293	* 水道工事	549
—地理	331	眞言宗	125	隨筆	816
—傳記	337	* シンジケート	318	—〔一般〕	030
—算術	337	神社	112	* 水文學	451
—通信	338	眞宗	128	水理工學	546
—會話	338	人種改良	363	水力學	422
蒸氣機關	563	—學	475	水力機械	566
昇降機	569	人種問題	375	* 水力發電	572
詔書	195	神書	111	水路測量	556
* 商店經營	334	神職	112	數學	410
—建築	555	* 人造肥料工業	679	* スウェデン文學	867
淨土宗	127	信託	323		

スキー	798	—史	902	造庭	715
スケート	798	—地誌	952	—日本	716
雙六	788	石炭	586	—外國	717
圖譜	097	脊椎動物	496	遺難救助	593
スペイン		積分	416	* 相場	355
—〔歴史〕	937	石油	643	僧侶	122
—〔地誌〕	987	律版圖書	587	造林	642
* —語	897	* 瀬戸物	728	速記	843
* —文學	867	織維工業	676	俗語	806
相撲	796	選錄	584	俗曲	843
		船渠	593	測量	539
		選舉	216	蔬菜	615
		—法	263	訴訟法	265
製菓	604	戰史	289	租稅	356
青海		禪宗	126		
—〔歴史〕	927	* 史考古學	476	タ	
—〔地誌〕	977	全書	050	體育	750
* 生化學	471	—〔日本人明治前〕	055	大學	393
聲樂	767	—〔日本人明治後〕	056	大衆讀物	833
生活問題	373	—〔支那人〕	057	大社教	117
税關	336	—〔西洋〕	058	代數	412
整形外科	523	潜水	599	體操	791
生産	310	蕨苔類	488	* タイプライター	742
政治	200	洗濯	656	對數表	418
—史	202	專賣	352	* 臺本	843
—學	201	船舶	343	* 臺灣語	838
製糸	638	* —工學	550	種	473
製紙工業	635	* 扇風機	565	煙草	614
生殖器病	524	專門學校	395	珠算	419
聖書	131	川柳	827	* 玉突	786
精神病科	522	染料工業	678	菓子葉類	434
製圖	539			探險	959
政黨	215	ソ		* ダンス	777
* 製糖工業	674	* 葬儀	995		
青年團	389	倉庫	336	子	
政府	217	菓子葉類	483	中央行政	2
生物學	420	蠶書		* 蠶書	611
製本術	018	—〔日本人明治前〕	051	中學校	392
生命	472	—〔日本人明治後〕	052	仲裁裁判	235
* 姓名學	183	—〔支那人〕	053	* 地球	445
西洋		—〔西洋人〕	054	著書機	769
—史	930	藏書票	019	畜産	620
—地誌	950	造船學	550	—政策・經濟	620
—哲學	170	—設計・材料	591	畜産製造	627
生理學	512	造幣	573	地誌	950
世界					
—語	873				

* 地史學	454	電氣學	427	統制[國家]	352
地質學	450	電氣器具	579	燈臺	597
地圖		電氣工學	570	動物學	
—日本	969	—測定・材料	571	—形態・生理・生態	400
—東洋	979	電氣鐵道	578	東洋	
—西洋	982	篆刻	738	—歷史	920
地圖學	953	天才教育	391	—地誌	970
地層學	454	點字	879	—哲學	160
西藏		電車	346	東洋思想	161
—[歷史]	927	天主教	133	道樂	753
—[地誌]	977	電信—[有線]	575	道路	341
地方行政	224	—[無線]	576	道路工學	543
—財政	338	傳説	109	道話	198
地方史—[日本]	918	電送寫眞	577	特許	669
地文學	451	* 天體物理學	444	讀書法	029
茶	614	天台宗	124	獨占	318
茶道	781	* 電燈	574	特殊教育	396
茶番	778	* 傳道	132	特殊心理	184
貯蓄	323	電熱	574	登山	799
徴収學	521	天泉	213	都市及衛生工學	549
彫刻	721	天文學	440	都市行政	225
—東洋	722	* 天文臺	443	—問題	374
—西洋	723	展覽會目錄	016	圖書館	020
* 朝鮮語	888	天理教	118	* 土壤學	611
譯度	993	電話—[有線]	577	* 土俗學	475
鳥類	498	—[無線]	576	土地	312
治療法	519			* ドック	593
賃銀	313			土木工學	540
				—設計・材料	541
テ		ドイツ		* トラスト	318
—[歷史]	935	—[地誌]	985	トランプ	787
* 庭球	793	—[語]	895	取引所	335
* 庭園	715	—文學	865	度量衡	339
定性分析	424	* 銅	586	塗料工業	678
定量分析	435	* 道學	155		
手形	324	* 燈火工業	676	ナ	
手品	788	陶器	728	—[內科]	522
* 織	586	投機	325	—[內服法]	260
哲學	140	撞球	786	—[內熱機關]	564
—概論	141	* 陶宮術	183	* 南極	983
—東西哲學史	142	登記法	265	* 雜船	598
織工業	632	道教[日本]	156	軟體動物	494
織造	342	—[支那]	166		
—工學	542	道具	774	ニ	
* 天氣豫報	433	統計	290	—[日用理化學]	698
傳記	940	投資	325	—[日蓮宗]	129
電氣化學工業	672				

日記	815	博物館	080	婦人科	523
日本畫	734	船用機關學	592	婦人問題	372
日本思想	151	博覽會	603	豚	623
日本精神	114	馬術	795	舞臺	773
日本		爬蟲類	497	舞蹈	777
—[史]	910	發音	883	物價	321
—[地誌]	960	發火工業	673	佛教	120
—[哲學]	150	發聲映畫	779	佛事	122
—[語]	880	* 發生學	471	* 物理化學	421
—[文學]	810	發電	572	物工學	420
* 鴉	626	* 發動機	562	舞蹈	776
俄	778	發明	669	フランス	
* 認識論	170	紙	111	—[歷史]	936
		版畫	741	—[地誌]	906
ネ		判決令	269	—[語]	896
—[美術]	625	犯罪	377	—[文學]	866
—[熱學]	426			プロバビリティー	417
—[熱機關]	562			文化	149
* 熱帶植物	481	ヒ		文學	
年鑑—[一般]	049	—[美術]	703	—[史]	801
年中行事	992	—[皮革工業]	694	—[日本]	810
* 粘土工業	677	—[比較心理]	183	—[支那]	850
		—[比較生物學]	471	—[外國]	800
		* 飛行機	567	分子論	429
		—[船]	567	分析化學	433
能樂	762	美術	700	文典	881
農業	600	—[史]	702	分配	310
—[法規]	600	—[博物館]	097	文房具	739
—[政策・經濟]	600	羊	623	* 分類法[圖書]	023
—[理化學]	611	皮膚科	524		
* 農業氣象學	611	微分	416	ハ	
農具	618	百科辭典	041	—[兵事]	280
農産製造	619	* 病院	500	* 平和問題	239
農事	610	標識	597	* ベルシア語	893
農村問題	374	* 美容術	697	變態心理	186
能評	771	病理學	513		
祝詞	111	漂流	959	ホ	
* ノルウェー文學	867	評論	814	—[法醫學]	253
		* 肥料學	611	* 邦樂	761
		貧窮	326	貿易	333
		貧民	378	方言	886
				* 報德教	198
俳句	826	フ		寶物館	031
配線	347	—[風俗]	990	法律	250
配電	573	—[服飾]	993	—[史]	252
寶貨	334	* 武士道	196	法令	259
* バイブル	131	武術	281		
俳文	825				
俳話	825				

傳記	337
* 北極	983
牧師	132
* 牧草	621
墨教	167
保險	329
捕鯨	657
墓地	719
法相宗	123
哺乳類	499
* ホルトガル語	897
* 本願寺派	128
* 梵語	898
盆栽	718
盆石	784
* 本草學	516
<b>マ</b>	
蒔繪	727
巻物類	096
* 禁厭	188
* マッサージ	519
* 祭り	112
マホメツト教	137
藪	636
豆	613
* 丸本	842
* マレー語	893
滿洲	
—〔歴史〕	928
—〔地誌〕	978
<b>ニ</b>	
御嶽教	117
水先案内	596
水戸學	158
民法	267
民謡	849
<b>ム</b>	
麥	613
無機化學	437
* 無齒	323
無脊椎動物	492
* 無電	576

<b>メ</b>	
迷信	187
* 綿羊	623
<b>モ</b>	
蒙古	
—〔歴史〕	928
—〔地誌〕	978
木材工業	683
* 目録法〔圖書〕	023
文字	882
物語〔日本〕	830
モルモン教	138
紋章	941
<b>ヤ</b>	
野外劇	778
* 野球	793
冶金學	585
藥學	516
藥品工業	671
* 野菜	615
<b>ユ</b>	
遊廓〔社會〕	376
—〔風俗〕	996
遊戯	791
有機化學	438
優生學	474
郵便	348
油脂工業	675
* 有聯故實	203
猶太教	136
* 夢	183
<b>ヨ</b>	
* 妖怪學	187
* 洋畫	736
* 洋樂	765
謠曲	841
* 養狐	623
養蠶	634
養魚	654
養禽	626
窯業	677

羊齒類	487
幼稚園	391
養貝	655
養蜂	628
* 陽明學	156
ヨーロッパ	
—〔歴史〕	937
—〔地誌〕	987
豫算	353
寄席	773
<b>ラ</b>	
落語	833
* ラグビー	793
* ラジオ	576
裸子植物	485
ラテン語	853
ラテン文學	863
* 落下傘	567
* 蘭語	897
<b>リ</b>	
理學	
—史	402
—通俗科學	403
理學療法	518
力學	421
陸軍	283
* 陸文學	451
陸上競技	792
利潤	314
律	123
立法	218
里程表	
—〔日本〕	969
—〔東洋〕	979
—〔西洋〕	982
俚語	849
兩極	983
領事裁判	231
兩性問題	372
兩棲類	497
料理	694
理論天文學	441
理論化學	431
林業	

林業	
*   —政策・經濟	640
—理化學	641
臨床醫學	520
倫理	
—日本	191
—東洋	192
—西洋	199
<b>ル</b>	
類書	
—總	042
—和	043
—〔漢〕	044
—〔洋〕	045
<b>レ</b>	
禮式	199
曆學	448
歴史	900
—地圖	909
—哲學	901
—博物館	089
レビュウ	777
連歌	824
<b>ロ</b>	
勞働	313
勞働問題	319
ローマ字	877
羅馬法	271
ロシア	
—〔歴史〕	937
—〔地誌〕	987
—語	897
—文學	807
論理學	143
<b>ワ</b>	
* ワイ・エム・シー	135
—	
和歌	823
和漢古方	509
和漢算法	419
話語〔日本〕	884
綿	614

**増補索引**

以下の事項は何れも索引を増補した  
ものであるから参照の印の米を附す  
ることを略した。

.....ア.....

麻	614
アスファルト(化工)	675
小豆	613
アツシリヤ(歴史)	931
壓力(物理)	422
飴	674
操人形	772
アルカリ(化学)	437
アルコール(化学)	438
アルミニウム(化学)	437
(冶金)	585
暗算	411
栗	613

.....イ.....

硫黄(化学)	437
(探礦)	583
位階	212
意匠	669
異常兒教育	396
苺	616
一中節	848
井戸	549
移入移出	333
委任統治	238
鑄物(美術)	725
(工業)	681
イラク(地理)	922
醫療機械	500
文身	991
色(繪畫)	730
(光學)	425
陰書法	746
印紙税	356
因數分解(代數)	412
隕石(鑛物)	457
院本	842

.....ウ.....

氏神	110
歌澤	848

.....エ.....

易學	188
液體動力學	422
エジプト-古代	931
-現代	939
繪草紙(文學)	836

.....オ.....

王學(陽明學)	165
大麥	613
オゾン工業	672
踊	776
温泉療法	519
溫度(物理)	426

.....カ.....

海上法	590
海底電線	349
海洋學	451
街路樹	543
河海工學	546
家具	729
學位	393
學級文庫	022
瓦斯分析-定性	434
-定量	435
滑走術(航空)	564
河東節	848
株式會社	316
神代(歴史)	911
ガラス	677
火力發電	572
官營事業	352
灌漑(工學)	546
(農業)	618
換氣裝置	558
函數論	416
官制-日本	222
-外國	229
寒暖計(氣象)	453
(物理)	426

漢方醫學	509
官有土地、財産	851

.....キ.....

議員	214
牛乳	627
牛酪	627
機械化(陸軍)	284
氣候學	453
畸形學	471
氣圈學	453
歸納法	143
ギター	766
救急療法	519
救荒	601
共済組合	317
郷土藝術	703
秘賣法	265
秘東問題	238
清元	848
機雷	287
汽力發電	572
ギルド(同業組合)	317
金、銀(經濟)	322
(探礦)	583
(冶金)	585
董外線	425
金相學	585
金屬組織學	585
勤勞教育	336

.....ク.....

勳章	212
軍艦	287
軍國主義	210
軍事衛生-陸軍	283
-海軍	286
軍馬	283
軍用犬	283
グライダー	567
グリセリン工業	679

.....ケ.....

經營學	315
形而上學	170



形態學(動物)	491	催眠術	186	石油(鐵山)	587
(植物)	481	債務	267	(鑛油)	648
系統地質學	454	砂金(探鑛)	582	セメント	677
刑務所	228	酒(化工)	674	セルロイド工業	679
計理學	337	座禪	120	戰車	285
下水工事	549	雜貨工業	679	戰陣醫學—陸軍	283
原價計算	337	サボタージュ	319	—海軍	286
原索動物	492	參考事務(圖書館)	024	全體主義	200
檢事	264	産業組合	317	銃鑛(冶金)	585
檢定試驗	380	三民主義	219	宣傳(政治)	200
.....コ.....		.....シ.....		(商業)	338
航海大文學	595	紫外線	425	千里眼	186
校外教育	398	自強術	510	.....リ.....	
光化學	431	資源	602	造家學	560
光學機械	425	自殺	991	造幣	322
江學(陽明學)	165	兒童文學	819	造兵學	280
航空術	567	射擊	281	測地學	449
醫學	567	證券	324	.....タ.....	
工作機械	560	消費組合	317	耐火建築	561
公使	239	職業問題	319	代議士	214
合食會社	316	食糧問題	373	怠業	319
公衆衛生	517	朱子學(日本)	155	大使	239
耕種學	613	(東洋)	165	耐震建築	561
考證學	165	人絹工業	686	大臣(憲法)	261
合成原料	660	人造肥料	689	ダイナマイト	673
合成樹脂	689	神代(國史)	911	代用品(工業)	679
鑛泉療法	519	(文學)	731	(食料)	674
光度學	425	新内	848	卓球	793
合名會社	316	.....ス.....		タンク	285
功利主義(倫理)	193	慧星	444	彈道學	280
古學(儒學)	165	ストライキ	319	暖房設備	558
(神道)	113	スパイ	280	.....チ.....	
國勢調査—日本	291	ス・フ	686	チーズ	627
—外國	299	スペクトル分析	435	地價	312
國防問題	280	.....セ.....		地球	444
五山文學	734	星學	440	地球物理學	451
湖沼學	451	成人教育	398	地史學	454
國家總動員	280	精密工業	689	徵兵—陸軍	283
骨相學	188	世界政策	210	—海軍	286
.....サ.....		赤外線	425	潮汐(天文)	444
債權	267	石炭(鐵山)	586	勅語	195
在郷軍人	280	(鑛業)	647	.....ツ.....	
財産	314				

通貨	322	内職	319	坪	339
國學	539	内分泌學	512	博士	393
.....テ.....		ナイロン	686	博物學	470
帝國主義	210	苗	612	派出婦	319
程朱學—日本	155	長唄	848	馬術	281
—東洋	165	ナチス	219	バター製造	627
ディゼル機關	564	鉛(探鑛)	583	發酵工業	674
手相學	188	(冶金)	585	バスケット・ボール	793
鐵筋コンクリート	561	南學(朱子學)	165	發生學(生物)	471
電壓測定	571	南洋群島(地理)	972	波止場(工學)	548
田園都市	225	.....ニ.....		煙火製造	673
電球	574	乳製品	627	花環	695
電氣化學	431	ニッケル(化學)	437	バルブ(製紙)	685
天氣學	453	(合金)	585	版權	062
電氣分析	435	日本學	150	判事	261
電氣力學	427	人間	475	.....ヒ.....	
天體物理學	444	人情本(文學)	836	ビール	674
電池	572	人相學	188	罷業	319
傳書鳩(軍事)	283	妊婦	528	微生物學	514
電磁氣	428	.....ネ.....		ピッチ	679
店頭裝飾	338	熱化學	431	微分學(幾何)	413
電燈	574	熱帶醫學	513	秘密結社	370
傳導—熱	427	年代學	448	病院	500
—力	421	粘土工業	677	百貨店	334
傳導機	579	熱線(光學)	425	品種改良(農業)	612
テレビジョン	577	燃料工業	673	.....フ.....	
天然ガス	587	.....ノ.....		フアツショ	219
.....ト.....		農業化學	611	同々教	137
同化作用(生理)	512	農藝經濟學	601	フィリッピン(地理)	927
同業組合	317	農業物理學	611	フート・ボール	793
東亞政策	210	農事試驗	609	復古學	165
動水學	422	農政學	601	文明史	901
銅鑄(考古學)	903	農村電化	601	.....ヘ.....	
動電學	427	農民運動	601	兵器科學	280
常盤津	848	能率増進	661	ペークライト	689
渡金	681	.....ハ.....		ヘリウム(化學)	437
ドック(工學)	548	細菌學	514	變壓機	571
(造船)	593	排水工事	549	辯護士	264
トラスト	318	排日問題	238	辯理士	669
トロール	652	賣藥	516	.....ホ.....	
トロンボーン	766	蒸	719	防空	280
.....ナ.....					

封建時代 一日本	914	綿羊	623	旅行 一日本	961
一西洋	932	メンタル・テスト(心理)	181	一東洋	971
報告文學	730	メンデリズム	473	一西洋	981
法制	250	.....モ.....		臨海學校	399
史	252	盲啞教育	396	林間學校	399
寶石	588	木炭	673	.....レ.....	
紡績	686	木板	741	レーヨン	686
法理學	231	モスリン紡績	686	歴史哲學	901
帽子	983	モンロー主義	219	煉瓦	677
ポスター(商業)	338	.....ヤ.....		練金術	430
ホテル	950	野外劇	844	レントゲン	427
歩道	543	山羊	623	光線療法	519
ホルモン説	512	薬局法	516	レンズ科學	425
.....マ.....		約束手形	324	.....ロ.....	
舞(能樂)	771	.....ユ.....		籠球	793
麻雀	787	游泳	794	勞銀	313
マグネシウム(化學)	437	遊星	444	老莊學	166
麻絲紡績	686	輸出	333	ローマ 一古代	931
魔術	187	輸入	333	雙啞教育	396
マッチ工業	673	油田	584	.....ワ.....	
マルサス主義	300	.....ヨ.....		和學(哲學)	152
マレイ(地誌)	972	豫報學(天氣)	453	(文學)	810
(歴史)	922	預金	323	惑星	444
(語學)	892	陽畫法(寫眞)	746	和算	419
マンドリン	766	養鶏	626	算	619
眞綿	638	養兔	623		
.....ミ.....		養豚	623		
明學(陽明學)	165	陽明學 一日本	155		
民族學	475	一東洋	165		
民俗學	990	.....ラ.....			
ミルク	627	ラゲビー	793		
民主政治	219	ラジウム(化學)	438		
明清樂	764	落下傘	567		
.....メ.....		蘭學	402		
ノートル法	337	.....リ.....			
渡金	681	隨文學	451		
メリヤス工業	686	利子	323		
メロン	616	領事	239		
假面(能樂)	771	兩替	323		
棉花	614	旅館	950		
綿火藥	673				
綿絲工業	686				

## 分類法參考文獻

**BACON, Corine.** Classification: Preprint of Manual of Library. Amer. Libr. Assn., 1916; revised ed., 1925. 37 P.

分類法についての最も手軽な入門書で、簡単な書誌も附いてゐる。D.C.やE.C.に對しての従來の論説を要約して、其の長所や短所を箇條書きに、列挙したりしてある。

**RICHARDSON, Earnest Cushing.** Classification, theoretical and practical. N. Y. Scribners, 1901; 2nd ed., 1912, 154 P.

圖書館人には餘りにも有名な圖書分類の寶典となつてゐる。物の觀方が基礎的で徹底的であると同時に、記述が賢明と機智とに満たされてゐる。但し非常に注意深く行届いて、推理され説明されてゐるとは言へぬかも知れぬが、元來その内容が圖書館學校での講義に在つたとすれば、本書の大した缺陷ではないであらう。

而して教科書としてよりは寧ろ本質的に、ヨリ以上のものを持つてゐると言へる。

**SAVERS, W. C. Berwick.** Introduction to Library Classification, with readings, questions, and examination papers. Lond. 1908, 172 P. 3rd ed. 1929, 4th ed., 1935.

本書は前記リチャードソン氏のものよりも一層に教科書的な入門書である。夫々の章節には参考書の指示や、自習問題が掲げてあるから、初學者にとつては實際的に有益であり、批判も妥當で説明も亦親切である。

Canons of Classification, applied and "The Subject," "The Expansive," "The Decimal," and "The Library of Congress" Classification: a study in bibliographical method. Lond. Grafton, 1916, 173 p.

本書に取扱はれた著者の分類の規範といふやうなものは、理論的な研究から抽出された主義や法則といふよりも、著者個人の信條であると批評されてゐるやうに、可なり獨斷的の傾きを持つものであるが、而もその主張には一種の精彩あることを見逃し得ないであらう。そして本書の眞の價値は、現代の代表的の諸分類について、歴史的に批判的に説述した點に在るとされてゐる。

A manual of Classification for Librarians and Bibliographers. Lond. Grafton,

1926, 345 P., with illustrations and bibliography.

英語で書かれたものの中で最も質的な力作、圖書分類の殆んど全分野に互る、責任的な叙述である。

本書はリチャードソン氏の「分類法」に刺激されて成つたのであるが、而もそれと同時に、リチャードソン氏のものに見出した不足の點を、充たすべく企圖されたものである。これを全體的の上から言へば、著者の前著書たる「キャノンズ」の内容が、一層に擴充され進展されて本書に大成されたものと言へやう。その知的誠實さは、特に本書の價値を大ならしむるものとして、推賞されてゐる。

**MANN, Margaret.** Introduction to Cataloging and Classification of Books. Library Curriculum Studies. Chic., Amer. Libr. Assn., 1930, 424 p.

圖書分類の入門書として教科書としてまた研究書としての、諸要素を兼備するを目的に著述されたもので、記述も正確で内容も充實してゐる。分類よりも寧ろ目録に就いて主に取扱はれてゐるが、第三章は「分類序論」として、第四章第五章は米國に於ける三大分類法としての、D.C., E.C., L.C. のそれぞれについて、評述されてゐる。

**BROWN, James Duff.** Library Classification and Cataloging. Lond. 1912, 261 p.

第一章—第五章は「分類と記號」第六章は「分類と目録」、而して第七章—第九章は目録に關聯しての叙述である。第六章の「分類の技術」は第八章の「目録との關聯」と共に興味深い。即ちブラオン氏は、件名目録が分類に密接な關係あることを強調してゐるが、分類に於ける件項が、アルファベット順序目録や、氏の主題分類法に於ける件名の如く、分離して存在するかのやうに、思考されてゐるのは誤りであつて、尙又氏が相關聯する件項が、共存するの原則は思惟し乍らも、それ等のものゝ排列の順序や位置といふものを看過したことが、今日の學者からは指摘されてゐるのである。

**MERRILL, William Stetson.** Code for Classifiers. Principles governing the consistent Placing of Books in a System of Classification. Chic., Amer. Libr. Assn., 1928, 128 p.

著者が市俄古のニューベリー圖書館で實施した分類規定であつて、米國圖書館協會の分類及目録委員會の推薦にかゝるものゝ、1914年印刷の冊子として配布され、後 Miss Julia Petee 他二名の助力で一層内容が擴充され、1928年單行本として發刊されたものである。然し一般的な六原則や十類のどの部門に

も適用さるべき諸規定は、著者自らが期待してゐるよりは其の實用性は餘程少いものと見られてゐる。主としてD.C.の欠陥を補填するものとして有用ではあるが、要するに三百餘條の規定の約半數のものは、直ちに首肯出來得ないものであると言はれてゐる。同規定の一番原形的なものは、1912年のイリノイ大學の圖書館學校での講義の原稿であるが、これは十餘年前に加藤宗厚氏に依つて小冊子として譯述發刊されてゐる。

**BLISS, Henry Evelyn.** The Organization of Knowledge in Libraries, and the Subject Approach to Books. N. Y. Wilson, 1933, 335 p.

今から約三十年前、獨自の立場から新分類法を主張した著者が、爾來雜誌に會報に發表した諸々の論説を、系統的に組織化した著作であつて、第一部は「分類法の原論」第二部は「分類、件名目録、書誌」第三部は「歴史的分類法の批判」等で、著者の新分類法の提案が附録されてゐる。

D.C. や E.C. や L.C. を過去の歴史的分類法として取扱ひ、理論分類の徹底化を強調して而も哲學的必ずしも科學的ならずと主張した點など、正に著者の新境地を拓いたものと言へやう。人間知識の系統的綜合に依る教育的組織なるものが、圖書分類法の上に提唱されてゐることは注目すべきである。

**比較分類法概説** 加藤宗厚著 文部省 昭和14. 54 p.

講習會に於ける講義を上梓したものであるから、取扱つた範圍の廣いのに拘らず、記述は極く簡略であるが、大體分類上の諸々の要點には觸れてゐる。但し二三首肯し得ない箇所もないではない。「比較分類法」といふのは、さういふ一種の分類法といふことではなく、「分類法比較論」とでも言つたものであることを附言して置く。

此書以外、我國に於ける圖書分類に關しての單行本としては、村嶋靖雄氏の「圖書分類法」衛基利夫氏の「圖書分類法の論理的原則」等があり、本著者の「圖書の整理と運用の研究」には、188頁—232頁に互つて、圖書の分類と記號について、一般的叙述が試みられてゐる。尙、新學研究の好資料として、京城帝國大學圖書館の關野眞吉氏が「圖書分類法に關する日本の文獻」(朝鮮の圖書館 第六卷第四號)に於て、發表年月順で殆ど網羅的に收録されたものが在る。和漢書に對する分類法の史的的研究は、未だ以て一冊も纏つた形式に於て、發表されてゐないのは寔に遺憾である。

## 『標準分類表』の批評について

「圖書館雑誌」第一一九及び二〇號に互つて、某氏に依り「どれが標準分類表か」といふ題名で書かれたものの中に、私の昨年八月の本誌に載せた「圖書分類法の一つの私案」が、其中に加はつて検討されてゐたのには、些か面喰はざるを得なかつた。私のは題名そのものも明示してあるやうに「一つの私案」であつて、從來の多少の研究と経験とからして、現在の私としては「まづ、コナ見當のものではなからうか」と言つた性質のものを、提案してみたのであつて、圖書分類上の日本統一などいふ景氣のいふ野望を、持つたものでは更になのである。無論それが單行本として大に賣出したものに依つては、限られた本誌面に於けるものとしては、索引どころか所要の綱目に参照を附することさへも、差し控へたのであつた。これは便宜上からか或は必要上からか兎も角、強ひて天下の何物をも「標準分類表」化しやうとした評者に對して、まづ私案そのもの本質を、明確にしておく必要があるから言つておく。

## 「標準分類表」は在り得るか

そもそも「標準分類表」といふ言葉は——英語ではスタンダード・クラシフィケーションとでも言ふのか——餘り多くは耳にせぬ語であるが、勿論それが在り得るとしても、或は場合に依り殆ど意味を成さぬのではないかと思はれる。何故なれば、「標準」と言ふからしては、「最高」とは意義を異にするとしても、普通三つも四つも標準は在り得ないであらうし、若し在りとすれば「標準の標準」が必要であつて、何のこともサツパリ解らなくなつて終ふからである。今これを事實に徴してみても、數ある内外の圖書の中に斯ることを、頭から標榜してかゝつたものは殆どないであらうし、D・C、E・C、L・Cの諸法に對しての如き、何れも其用途に應じて、「代表的」又は「典型的」の分類表としての意味に於て、これを推薦し説明し、或は夫々の長短について批判するのである。言ふまでもなく「代表的」又は「典型的」といふ言葉は、その卓越性を推賞した形容詞であつて、極めて自由な語意のものである。誰か是等諸法の一つを探つて、之こそ最高の「標準分類表」なりと言ひ得るものぞ。然し乍ら茲に、或人があり前人未發の見地から唯一の分類表の偶像を建立しやうとも、蓋しそれは頗る勝手であらう。

## 分類表の「基準」といふこと

次に所謂「標準分類表」なるもの考査の基準としては、論者は例のリチャードソン、セイヤース兩氏が示したものを以て、無二の計尺として使用されてゐるやうである。而してそれは「最低限度の標準」であるそうだが何が故に『最低限度』であるか、又何が故に「最低限度」を適用したのであるか、一向に解らない。

それは兎も角、圖書分類の基準は——それが少々改変されてゐるやうとも——英米に於けるライブラリー・スクールなどで、「よき分類表の持つべき條件は何々か」と言つたやうな試験問題として、寧ろ課せられる性質のものである。と言ふのは現在の日本の圖書館で、日々の業務上に用ふる重要なツール(道具)としての圖書分類表に對しては、もつと切實な緊要な先決的問題が、幾多考慮されねばならぬからである。即ち和漢書洋書の分類の關係をどうするか、書庫の圖書は果してどの程度に細分すべきであらうか、閲覧用の目録に書庫の分類表を適用するかどうか、尙此以外にも重要な問題があり得ることと思ふ。とまれリチャードソン、セイヤース兩氏の基準が、圖書分類表に對する殆ど原則的のものであることには、誰人も異議はないところであるが、現在日本の圖書館に必要とする一層重大な條項が、其他にも可なり存在することを、決して忘れてはならぬであらう。それは吾々の分類表が、輸出向のお茶でも生糸でもないからである。

## 適用か、應用か、革新か

一體或る一つのシステムといふものが、他に「適用」されるといふ場合、それは「應用」されることでなく、また「革新」されることでもないことは、語意に依つて自明である。勿論適用は或る程度の變革を必要とし、また時に余儀なくされるものであるが、それは主なるものに少く従なるものに多く、成るべくは原形を保持するのが常である。

從來代表的の分類表が流布される場合には、殆ど皆この適用を見るのであり、應用又は革新と稱し得べきものは、案外に其例が尠い。D・Cの今日の盛行についてみても、斯る事實は明に看取し得らるゝ所であつて、その最も著しいものとしては、例のブラツセルの萬國書誌學會やアメリカのコロンビア大學圖書館のそれであらうが、前者が一層精密な書誌的細分を試み、後者が随分思ひ切つた改變——殊に社會科學などに——を加へてゐるとは言へ、大體に於ては主類の位置及び記號は維持されてゐる。これD・Cの適用を旨としてゐるからである。

私案も亦ここに些か意を用ゐたのであつて、成るべくは主類に於ける原案との一致を期したのであるが、斯る事實——即ち適用(アダプテーション)は、廣く文化の各方面についても觀るを得べく、吾々が帽子を被り洋服を着て靴を穿つことは、決して評者の言ふが如き「センチメンタリズム」とかゝらでなく、またそれが西洋人に、間違はれる虞れともなりはしないのである。

## D・Cの智識の九分とは

次に私案に於ては、從來過充の類網と一般的に認められてゐる社會科學(300)の類を、國家に關するもの、一團と、社會に關するもの、一團との二類に分配したのであるが之に對して、「智識の諸部門を九分するD・C構成の根本原則の

破壊であるのみならず、各部門が相互排他的でなくてはならぬといふ分類の原則への反逆である云々」との、威勢高かな批難があつたのである。然しこの批難そのものに就いてこそ、正に検討の要を認めるものであると言ひたい。

元來デュウキー氏の智識の九分の根本が、セイヤース氏も指摘してある通り、例のベーコンの哲學思想に胚胎してゐるのは明である。而してそのベーコンの智識の分類と言ふのは、まづ人間の智識を(一)記憶、(二)想像、(三)推理の三能力に基づくものに、大別したことは周知の如くで、所謂社會科學に屬するものは、今日言ふところの哲學と共に多くは、(三)の推理の中に包括されてゐるのである。即ちデュウキー氏の智識の九分といふことは、このベーコン流の智識の三大別を根底として、その圖書分類の上で適當にまた任意に、九分したといふに過ぎないので、言はゞ其の中心思想は借物であり、必ずしも絶対不變を強らるべき、性質のものではないのである。で、また他の觀點からして、原案の二類を二類に配分したところが、直ちに「D・C・構成の根本原則の破壊」など、一圖に騒ぎ立てるには及ばぬわけ、却つてそれでは本人のデュウキー氏自身が、迷惑に思ひはしないであらうかを慮れる。

#### 所謂「社會科學」といふもの

それから圖書分類上で使用されてゐる所の、「社會科學」(ソシヤル・サイエンス)の意義も、まことに廣狭さまざまに必ずしも一定したものではないのである。D・C・300はSociologyであるが、其基本となつたと言はれてゐるハリス氏の分類では、Social and political sciencesであり、ブラツセル・アハマルではSciences Sociales, DroitであつてE・C、L・C・何れも所謂「社會移學」の諸科を關連配列してゐるが、アルファベットを以てする記號の自由性からして皆夫々主類として、獨立の位置を與へてゐるのである。従つて茲にやゝ窮屈な十進的記號を以てするに當つて、國家の構成に關する政治、法律、軍事等の一類と、個人の生存に就いての社會、經濟、教育等の一類との對立も亦、時に可能であると言ひ得やう。蓋しこれを以て「各部門が相互的に排他的でなくてはならぬといふ分類の原則への反逆」であるとか、「リチャードソン氏の事物の順序への大なる悖反」であるなどと言ふには、論據が餘りにも心許なく思はれる。現に故佐野友三郎氏に依つて創始された山口縣立圖書館の分類に於ても、三〇〇「社會、産業」四〇〇「法律、經濟」と二類に別たれてゐる事を知るだらう。

兎も角、D・C・の300は全く過充の「類」であり、「軍事」までが「綱」として其中に包容され、滿員電車の吊皮にぶら下つてゐるのは、「社會科學」としての意義そのもの上からも、まことに不純であることを免れぬ。

#### 「醫學」と「工學」は科學？技術？

次にまたD・C原案では「醫學」は「工學」と共に、Useful arts(有用技術)の一類中に、包括されてゐることは誰もが知る通りであるが、こゝに從來我國圖書館の十進法に據るものに於ては、殆ど一般的に「醫學」は理學に「工學」は技術に附屬せしめてゐるやうである。

「醫學」と「工學」は醫學か技術か、これは觀方に依つて、どうにでも言へることである。蓋しこの兩者は何れも科學の應用方面に於ける學問として、特別の位置を認むることが一番至當らしく思はれる。「私案」でこの二つを以て一類としたのは、斯る理由からであり、ブラツセル・アハマルに於て、Sciences pures(純正科學)と、Sciences appliquees(應用科學)との二類を設けたのと略一致してゐる。但しブラツセル・アハマルでは、農業工業をも應用科學に包含せしめてゐるが、私案では此の二者を以て、寧ろ有用技術であるべく見做して、別に一類を與へたのである。大阪府立圖書館分類表では、工學、工業のみに一類が頒たれてゐるが、これも日本に於ける代表的の商工都市といふ土地柄としては、可なり至當と言ひ得べく、如上の諸事實も亦「社會科學」の場合と等しく、十進法の根本原則の破壊などといふやうな、大それたことではないものと思推する。

#### 圖書分類法の哲學的色彩

こゝに圖書分類法の哲學的背景について考へてみる。言ふまでもなく之は後に説く人爲的分類法に對する、理論的分類法に就いてのみのことである。デュウキー氏の十進法がその理論的基礎を、ベーコンの智識分類の哲學に置いてゐることは既述の通りであり、カター氏の展開法は事位の順序を歴史的進化觀に依つて排列し、ブラオン氏また獨自の宇宙進化の理論からして別分類法を構成したことは、セイヤース氏も其著「キャノンズ」其他に於て指摘してゐるが、如上代表的の諸法並に議院分類法をも關聯して、夫等の背景をなす所の哲學的思潮に思ひを潜むる時、一層深甚の興味を發見するものである。一口に言へば哲學思想の推移變遷と、圖書分類法に於ける類綱の順序排列との關連性についてである。此間の事情に對しては、數年前「圖書分類法に於ける哲學的色彩」(未發表)を草したのであるが、その一端は「圖書館學講座」の第九卷に載せる積りであるから、茲では省略しておく。斯る哲學的の立場といふものからして、再びD・C・に就いて觀るとき、嘗てデュウキー氏自身が「實際的の便利と經濟とが全體系の基調であつて、利便を減じ而して價值を増すが如き、如何なる理論的整理の組織變更も許されぬ」と主張してゐると言へ、其根本的思想の基礎なるものは、古いベーコン流の哲學であることは、茲に認めざるを得ないであらう。而して乍ら一方からはまた、古るいからこそ常識的實際的であるとも言へる。常識は古いものだ。無論古いものが常識であるとは言へないが……

## 理論的圖書分類の實態

斯く古いのは D・C・許りでなく、今日としては E・C・と雖もまた古いであらう。L・C・に於ては、之に多少の新味を認め得るであらうが、それも要するに程度の問題に止まる。かくて恐らくは現代に於ける新進の哲學者達は、總て皆是等の圖書分類法に對して、一齊に冷笑を投げることであらう。と言ふのは理論的分類法の根本としての哲學そのものは、結局各人の人生觀そのものであるからである。

それに理論的分類法の適用の實際上から見て、圖書を分類する者と分類された圖書を用ゐんとする者とは、その推理の作業に於ては文字通りに、同一である事を必要とするに拘らず、後者は前者に對し全く逆の位置に在ること、往々にしてあり得ることである。無論これは圖書の利用者としては、正に呪はれた者であるに違ひないのであるが………例へば今、最も常識的と言はれてゐる D・C・に就いて見ても、「電氣料理」に関する圖書を求めやうとする場合に、其「電氣料理」が「特殊燃料」のしのであり、「特殊燃料」のことは「料理法」に屬し、「料理法」は「食物調理」であつて「食物調理」は即ち「家政」の綱に、而して「家政」は「有用技術」の主類に含まれてゐるのを知るに至るまで、まことに複雑微妙な推理の宙返りを行はねばならぬのである。而して斯る危かしい宙返りを試みんとする者は、結局墜落して求むる種類の圖書の何物をも發見し得ないことは請合であるが、彼自身としては必ず下の如く自問するであらう。「何故に電氣料理は在るが儘に電氣料理として存在しないのであらうか」と。但し之に對して相對索引の効果を、餘り大きい聲では言はないが、いゝと思ふ。何故なればピシヨップ氏も言つてゐるやうに之は、圖書館に於ける分類及び目録作製者にとつての大事な處でこそあるからである。

## 人爲的圖書分類法の存在

そこで、人爲的圖書分類法の一つである「記憶的分類法」の主張者なる英國のロビソン・スミス氏はかく言ふ。

現在は圖書館の業務に恐ろしい重複と無駄がある。その結果時代といふものに副はないのだ。而して業務刷新の効果を擧ぐる第一歩は圖書分類である。それには(一)項目は一般物的のものでなく特殊物的のものにすること、(二)中世紀からの面倒くさい理論に據らずして、項目のアルファベット順に排列すること(三)圖書番號は暗號でなく著者の略字を以てすること等である。何故、人生をして在るが儘より小むつかしいものにして終ふのだ? ヌッター冊の本を探すのに、眼その他の五官と腦との、合せて六官を同時に用ゐねばならぬのか。

其中のヌッター一つだけで事は結構足りるのである。同氏の示した「記憶的圖書分類法」の相貌を左に掲げる。

Art  
Biography  
Christianity  
Dictionaries and grammars  
European Literatures  
Fiction  
Greek and Latin  
History  
Industries  
Juveniles  
Knowledge auxiliaries  
Law  
Mathematics and mechanical sciences  
Natural sciences  
Oriental Languages, literatures, religions  
Philosophy  
Quatos and folios  
Reference-room  
Sociology  
Travel  
University and society publications  
Vertical-file for pamphlets  
Weeklies and monthlies  
X=Xhibits  
Year-books  
Z=Newspapers

## 人爲的分類と理論的分類

前記のやうな所謂「記憶的分類法」に屬するものは、その實施の範圍こそ廣いと言へないが、世界有數の大圖書館でも現に採用せられてゐることを知る。まづ大英博物館圖書館の參考圖書の類は記憶式に分類せられており、ベルリンの國立圖書館また一七七項を此式に據つて分類排列してゐる。比較的新らしく L・C・を加味して分類の大改訂を行つたハーヴァード大學圖書館に於ても、一七三の項目は記憶式の順序排列に従つてゐるのである。L・C・が主類に於ても之と二三の略ど

偶然的一致を見せ、細目に於ては理論的分類の煩瑣を捨て、記憶式を採用してゐることは亦人の知る所である。その他英國の小圖書館の或るもので、簡単な此式に據る所も亦多少はあるやうである。

かくの如く記憶式分類法の存在は、決して見逃すべきものではないが、その國語の頭字を基調とする上からして、適用の範囲が限定されるのは當然であり、その項名の選擇の點からしても、同意語その他の厄介な問題が、可なり惹起し易いことは免れ得ないであらう。又その排列の順序が殆ど誰にでも解るであらう所の、アルファベット順に依る不變の緊迫を持つことが強味である。而して記憶するにも亦容易である。斯る特色有る所の記憶的分類に對して、理論的分類は果して如何なる事情の下に在るであらうか。私は思ふ、理論的分類に於ける事物の順序は……それが一般的の圖書館である場合には一層……宜しく常識の推理に據るべきものであると。それが誰にでも最も解り易いことだからである。

茲まで來るとデュウキー氏は古るいけれ共、また豪いことにもなるであらう。これは全體的に觀てのことであるが、理論と實用とを、最も巧みに平易に繋いだものは、矢張り D・C のやうである。

#### 分類の精確の問題について

最近單行本として發賣された「日本十進分類法」なるものは「わが國における近代圖書館事業始まつて以來の大收獲」であるそうだが、不幸にして未だ之を手にしてゐない。又某氏の「どれが標準分類法か」の一文を通じて知るところに依ると、「紙密の度に於て冠絶したの」であり、「有記號の一般分類表として未曾有のもの」さまで言はれてゐるが、その發祥の地が大圖書館としては、藏書廿萬冊の府立圖書館の唯一を持つ所の、(而もそれは其所で作られたものではない)大阪であることは不審に思はれる。つまり斯る微細な分類をも敢へて必要とした程の、圖書の大範圍の實在が解らないのである。これは其作製の出發點に於て、まづ「總藏書數の各段階に對して、それぞれ特定の密度の分類表を當てがふといふことは、實際上あまり意味をなさないのではなからうか」と看過された結果と想像し得べく、藏書冊數と分類の精確其他の實際問題は、全く度外視されて「圖書在つての分類表」でないことを、自ら雄辯に物語るものと言はればなるまい。

分類の精確に就ての論説は、例のメーコン女史の著書の一節にも記載されてゐるが、從來米國では屢々論議された所のものである。茲にその詳細を記する暇を持たぬが、これを具體的の例についてみても、デュウキー氏の「大冊の分類表の如き、多くは大圖書館用としてのものであつて、普通藏書五六萬冊まで位の中小圖書館及び學校圖書館向としては、その略表(アブリツチド・エティション)が推薦使用されてゐる。尙カター氏の展開法に於て、其第一表より第七表に至る各類原案の作製が、大體藏書冊數を基本としての、圖書館の規模を對象としたも

のであることを認むるならば、蓋し思ひ半に過ぐるものであらう。

日本十進分類法が「主類の排列に關する限りカマーの E・C のそれである」が故のみで、果して「L・C をも凌駕すべく、これ全く鬼に金棒と謂ふべき」ものであるであらうか。

#### 和洋書の共通分類といふこと

一體、最も學問的評判のある E・C を、記號の上で卓絶してゐる十進法に當て欲めてみやうとすることは、分類に興味をもつ者の殆ど誰もが一度は思ひつくであらう事である。而してそれが E・C の單に主類の位置のみについてなれば、殆どそれが五十歩百歩であることを知るであらう。茲にそんな上塗りものではなく、やゝ徹底的に之を試みたものに、近頃日本では俄に有名になつたところの、例のメリル氏の「ニューベリー・グラフィック・ヒケーション」といふのがある。これは大體カター氏の第七分類表を採り、自館の都合で特殊の部門——例へば音樂の如きには改變を加へたもので、主類はその儘アルファベット順に、次の綱からして十進的に配分したものである。而して圖書番號としては總ての著者名を、〇一から九九まで配當した「メリル式番號」を用ふるのであるから、請求番號としての平均の長さは、一文字と六數字位であるといふ。茲に注意すべきは同法が、單に主類の配置のみで、E・C を D・C 化したものではないといふ事で、是はやがて兩者の分類法としての本質的相違といふことであり、まことに當然の處置として、興味あることと言はねばならぬ。

次に日本十進分類法なるものに於ては、和洋書の共通分類といふことが標榜されてゐるやうだが、その從來比類のない程に精細な極めたといふ、同法の細別された各種目に於て、斯る困難な問題が容易に解決されてゐるものとすれば、一種の奇蹟感をさへ與へる。私案に於ける和洋書の共通分類は、漸く第二段の綱に於てのみ期し得たのであつた。それにしても所謂「標準分類表」なるものゝ例の基準に、評者は何故かゝる重大な要項を閑却して終つたであらうか。これは主類だけの E・C の D・C 化などよりも、迤に意義のあるべき問題であるからである。

#### 書庫の分類と目録の分類

それから「日本十進分類法」に就いては、分類の根本概念である筈の、書庫の分類と目録の分類との關係が、明にされてないやうである。西洋流に考へれば普通ブック・グラフィック・ヒケーションといふ程に、分類は書庫に於ける圖書の分類を意味するものと解釋して、まづ差支へないであらうが、我國に於ては殆ど總てと言つていゝ程に、閱覽用目録として分類式を採用してゐる現在に於ては、特に此の間についての觀念を、明確にしておく必要があると思ふ。

デュウキー氏は有名なる其著十進法の緒言に於て、同分類表が圖書の外、冊子

切抜記事等の分類にも適用され、又書目としての分類にも使用され得ることを、明言してゐるのは周知の通りである。これを實際について観る時は、米國に於ける殆ど一般圖書館は、閱覽用目録としては所謂辭書體目録を採用してゐるのであつて、閱覽用としての分類目録は事務用としての書架目録と、重複するものと思惟されてゐる。タゞ専門的の攻學のための必要からして、部分的に之を併置するもの、代表的圖書館としてはニュー・ヨーク州立圖書館、カーネギー中央圖書館、ジョン・クレラー圖書館、ニューベリー圖書館の僅に四館あるのみ。保守的の英國に於ても進歩的の圖書館は、一般に閱覽用目録としては辭書體を以てするのであり、獨逸に於ても漸く斯る機運に向ひつゝあることは、最近の同國の圖書館協會大會の模様によつても推知し得るのである。

ツマリ實際問題の上からして、デュウキー氏の D・C・原案は、書庫に於ける架上の圖書の分類法であつて、書架目録を印刷製本した所謂蔵書目録が、亦これと同様の事實を表示することは、寔に當然であるが、但しそれが能くまで、外來者のための閱覽用目録でないことは、明にしておく要があらう。

「日本十進分類表」は圖書の分類のためのものか、目録の分類のためのものか或は兩者のためのものか、それとも何れでもないのか。

### 結 論

以上記述したことは圖書分類に關する論説の、正にスロー時代を現出したわけであつて、其中の一項のみについても、此文の全容量を以てして、尙不十分とするものもあるであらう。さるにても英國に「大英圖書分類法」なるものなく、米國に「合衆國圖書分類法」なるものなく、而して極東日本に所謂「日本十進分類法」あり、果してこれは全くどうかと思ふが、世に分類論の種の盡きることばなからうから、此問題に關しての論議はマツこれで打切つておく。

(一九三〇年一月)

## N. D. C. 第三版を見る

### 此文を草した動機

本「圖書館雜誌」昭和十年九月號に、掲載された「圖書館學雜載」中に取扱はれた分類法に關しての所説は、寔に近來の好文字であつたと思ふ。それが諸々の圖書分類表に互つての、形式區分の研究に止つてゐたとは言へ、分類そのものに就いての概念の徹底さと、實務の上から來た判斷の正確さを、十分に窺ひ得らるゝものである。分類の論議が、在來の單純な抽象論からして、本當の軌道に乗つ

て來たのである。私が本誌の昭和五年三月號に「所謂標準分類表の批評について」を發表してから茲に五年、再び分類法に關する一文を草するに至つたのは、全く斯る情勢が我が圖書館學界に、誘致せられつゝあると觀たがためである。某氏の「標準分類表」はあり得る、ある」に於ける、「堂々の論陣を張つて欲しい」といふ要求に、直接對してはでない。然し乍ら、此文で言ふところの事柄そのものが、自ら某氏の關心事となるに足るならば、又以て一石二鳥の幸とするものである。

尙また私は日本圖書館協會が、こゝ數年來委員會を組織して、目録に統計様式に或は圖書館社會教育に、それぞれ基準なり目標なりを、討査し攻究してゐるのに拘らず、圖書分類法に關する限り斯る企圖の未だないことを、甚だ不審とするものである。勿論昭和五年十月の第二十四回全國圖書館大會に於て、「日本十進分類法を標準分類法として認定するの件」といふ提案があり、委員附托となつたが理事會では之を否決したといふが、其理由については全く不案内である。かく會ての問題であつた所の「日本十進分類法」N・D・C・が、最近その第三版を發行したことを知るに及んで、茲に私は所謂標準分類法と日本十進分類法との相關的觀念を新にし、始めて之が檢討を試みることにしたのである。俗に三年経てば泣く兒も育つと言ふから、N・D・C・も其第三版を發行するに至つては、可なり完全な成育を見たものと言へるであらう。從來、同分類法に對する批判の主なるものとしては、芸草會の同人數氏に依つて、「圖書館研究 第九卷第一號」に、發表掲載されたのが可なり纏つたものであるが、本「圖書館雜誌」に掲載された斯種の論説の殆ど見ては、青年圖書館聯盟の會員諸君に依つてゐた。従つて、同團體の持外者のものとしては、恐らく此文を以て最初とするであらうことを記して置く。

### 再び「標準」に就て

會て熱心な標準分類法論者であり N・D・C・のスポークスマン(代辯者)である一人は、圖書分類法に對しての「標準」の語意について、「普通に使用される又は使用され得る、もしくは使用されるべき分類表」の謂ひに外ならぬと言つたが、これは「標準」なる名辭に對して、論者一流の定義を下したものに外ならぬ。而して、これでは英語のスタンダード(標準)の意義も、端的に言へばユーザブルとか、プラグマカルとかいふ文字の語意と、殆ど大差ないものとなつて終ふであらう。そして又その實例として論者に依つて擧げられた所の D・C・E・C・L・C・S・C・等は、所謂標準分類法として決して等しい意味で、「普通に使用され、又は使用され得る、もしくは使用されるべき」ものでないことは、夫等の諸法を生んだ英米に於ける圖書館界の實情が、何よりも雄辯に物語つてゐる。従つて是等の諸法に對しては、リチャードソン氏の示した分類法の基準を金箇玉條として、一



様に「標準」のマークを付けやうとしても、それは凡そ意味のないことであると  
言へやう。なぜならば、是等の諸法に等しく「標準」の語を冠して、同一視しや  
うとすることは、ヒマラヤの連山を望んで、同じ「山」の集りであると断ずるが  
如きもので、その概念の餘りに大ざつぱであることを、免れ得ないからである。

所謂「スタンダード」なる語は、簡単に言へば「公認された基準」といふこと  
であり、形容詞としては代表的とか模範的とか等々の、同意語を持つ。而して若  
しこれを、圖書の分類法の上に適用されるならば、その優越性に對して一般的に  
認められ、而して始めて獲得さるべき性質の言葉であると信ずる。つまり「標準」  
が他の同意語に比較して、多少とも特別な意義を持たうとするならば、この「公  
認」の語意を力強くすることに在ると言へやう。N・D・Cは、其生誕の母胎  
である所の青年図書館聯盟が公認し、そして曾ては唯一の公刊書であつた關係上  
図書館員講習所の教科材料であることも、或は當然と言ひ得られやうが、日本圖  
書館新刊圖書目録に、之が適用されてある事實については、協會の幹部又は雑誌  
の編輯者に依つて、何等其理由は言明されたこともないのであるから、此方面か  
ら「公認」されたものとは、決して言ひ得ないであらう。つまりN・D・Cは  
標準分類法には未だなつてゐないのである。アハ將來に於て、果して成り得るも  
のであるか、どうか。この文に於ける研究の焦點は、此處に在るのである。但し  
外國に於ては、「スタンダード・クラシフィケーション」などいふ語は、いく  
ら二三の書で散見されやうとも、圖書館學のテクニカル・ターム(術語)として  
は、未だ以て認められてゐないであらうことを、附言して置くことも強ち無意義  
ではないと信ずる。

#### 主類の排列が不可

まづN・D・Cに據る第一位の、主類排列の順序について觀る。これは曩に標  
準論者の一人から、カター氏の展開法のそれに準據してゐるが故に、「L・C.をも  
度ぐ眞に鬼に金棒」とも言ひつべき長所として、大に吹聴せられた所である。そ  
れはD・Cに於ける900の歴史を200とし、400の語學を800に移動せしめたこ  
とを、指すものであるらしい。斯ることはD・Cに對して、從來誰もが認めた  
歴史と社會、語學と文學、その隔絶を避けやうとしたものとして、その意味に於  
ては認容し得るのであるが、テウキー氏の分類の觀念を以て、不動の鐵則であ  
ると主張した標準論者にとつては、却つて自らの論理のパラドクスに、陥入らざ  
るを得ないこととなるであらう。何故ならば、これではテウキー氏が、人間の  
記憶に依る所産として、主類の排列の最後に置いた歴史が、他の諸々の悟性に關  
係する類の間に介在し、また之と反對に語學が上位のこの集團から抜け出して人  
間想像の能力に俟つ文學と、握手することとなつたからである。これは論者の言  
ふ所の、「事物の順序への大なる悖戻」とかでなくて何であらう。かくN・D・C

は、その主類排列の順序に於て、まづ原案のD・Cに向つて、大なる反逆を取  
つたことになるが、然らば、その標榜するが如く、よくE・C.化することに於て  
は、成功してゐるかどうかと云ふに、これも亦頗る怪しいことになる。

由來E・C.とD・C.とは、今更言ふまでもなく、前者はアルフベットの後  
者は數字で、それぞれの類を表示してゐる關係から、類そのものゝ内容に於ても  
當然こゝに可なりの差異を生ぜざるを得ないことは自明の理である。即ちD・C.  
に於ける社會が軍事を、有用技術が醫學を、それぞれ一綱として包括してゐるが  
如き、最も顯著な例であつてE・C.に於ては、その羅馬字順に依る自由な展開性  
から斯る不合理さを避けて、是等は何れも獨立の一類として、立派に存在してゐ  
るのである。D・C.を範としたN・D・C.が、類の内容としては(醫學を理學  
に附屬せしめたのを除き)、殆どこれに等しいものであることは當然の歸結であ  
り、從つてE・C.とは各類そのものゝ本質に於て、凡そ似て非なるものである  
ことも當前である。例へばN・D・C.の地誌を持つ歴史科學や、音樂運動を伴  
ふ美術やが、これに對應するE・C.の類に比較して、本質的の相違あるのは言  
ふまでもないが、その排列の順序の上に於ても、また非常の経程のあることは、  
兩者を對照する誰人にも容易に判るのである。之を要するに、N・D・C.の主類  
排列の順序はいかに割引してみても、E・C.のそれとは可なり豫の遠いもので  
あり、いくら「鬼に金棒」であつても、それは鬼面の鬼に過ぎぬであらうことな  
まことに遺憾とするものである。

#### 不適當な類の名稱

かくてN・D・C.は、その主類排列の順序に於て、E・C.どころかD・C.  
でさへもあり得ない所の、獨自と言ふより、一種の變體性のものであるのを、否  
み得ないこととなる。而して斯る變體性的特質は、その類の稱呼の上にも及んで  
いかにも奇妙に思はざるを得ないやうな、類名の幾つかを發見するのである。

まづ哲學と宗教とを合しての一類……かのD・C.原案の九分嚴守論者は斯る事  
實も亦何と觀るであらうか……に對して、「精神科學」なる難しい名稱を與へて  
ゐる。私の知る限りに於て、「精神科學」と名づくべきものは、十八九世紀以後  
の比較的新しい學問で、今日に於ても其の内容とする所は、基礎科學として認む  
べきものさへ、文獻學を社會學を或は歴史をと、學者間にも殆ど一定されてゐな  
い所のものである。若し又リツケルト、ウキンデルベンド等の、比較的新しい哲  
學思想に影響されて、歴史や藝術や社會科學をも合せて、そこに所謂「文化科學」  
の一團を、形成せしめるならば兎も角、單に哲學と宗教とを合しただけで、「精  
神科學」なる名稱を以てすることは、N・D・C.の學問的であるやうであつて、  
却つて學問的でない體左となりはしないであらうか、これと同じ意味で次に問題  
となるのは、「歴史科學」なる類名に就てである。この名稱は恐らくはE・C.の

それに倣つて、之を探つたものであらうが、其實 E・C・に於ては N・D・C・の如く、歴史に地誌を附屬せしめるやうなことは、最小圖書館向きとしての第一分類表に於てに限り（その場合でも傳記、歴史、地誌には、夫々獨立した主類を、與へた方がいと注意してゐる）其他の第二より第七に至る諸分類表に於て、歴史は「歴史科學」として存在し得べき、單獨の純正なる地位を確保してゐるのである。歴史と地誌を一類に併合するのは、900を「歴史」とする D・C・の原案に認むべきであるから、N・D・C・は類の内容としては之と等しくしてゐ乍ら、而もその名稱の點に於ては、E・C・の「歴史科學」を以てしてゐるものと云へやう。これと同様に、D・C・流に「軍事」をも包括する一類に、N・D・C・が「社會科學」なる名を用ゐてゐるのは、名辭の不純を專くといふこと以外には何等の意義もあり得ないであらう。尙普通には、「工學」と言へば解るものを、之に「家政」を從屬せしめて、特に「工藝學」なる舊い言葉を選んだなど、編者が第三版の導言中に之を認めてゐて、尙且つこれを改訂し得ないといふ理由がまるきり解らないのである。

セイヤース氏は、D・C・が世界的に普遍した程に、實際的であり常識的である特徴の一つとして、その類、綱、目に互つての、稱呼の極めて平易妥當なることも、推舉してゐるのであるが、凡そ N・D・C・はかゝる點に於ては、寧ろ對照的にこそ在るものと云へやう。

#### 直譯的な「地理別」

茲に言ふまでもなく、N・D・C・に於ける記憶的數字（ネモニック・ナンバー）の活用による地理別、言語別、形式別等の諸法は、同分類法の全機能の上に、重要な役割……と云つても助記的即ち第二位的の意味……を演じてゐるものである。N・D・C・にも之が採用されてゐるのは、頗る便利でいゝ事に相違ないが或る論者の言ふが如くに、これを踏襲しなかつた所の、我國在來の十進式の諸法が、「名ばかりの十進法」でしかあり得ないやうに、一圖に見て終うのは餘りに末梢的であるやうである。

由來、吾々日本人……もつと汎い意味での東洋人の、世界に對する大まかな概念即ち世界觀は、まづ東西兩洋の二大別に發足するものと言つていゝと思ふ。今日それが地理學的には、多少は非科學的であつても、それが一種の通念である程に永い傳統を持つものであれば、強いて之を拒否するには及ばぬであらう。さればこそ、從來の十進式分類法に於て、「東洋」「西洋」の區別が、歴史、地誌、及び哲學等の諸部門の、多くは第二位の綱として、必要とされたのである。かく東西の二別を存置したことは、やゝ大まかではあるが最も簡易な地理的別法——それは文化の本質にまで徹する歴史的の背景をさへ持つてゐる——であつて、之を緊要とした點にこそ、我國の分類法としての、特異性をさへ認めるものである。

而して斯る東西兩洋の區別は、周知の通り例のキツブリメに依つても、「東は東、西は西」と歌はれてゐるが、歐羅巴でも可なり古くから、存在した地理的の信念である。「東洋人」「東邦人」「東洋藝術」其他、之に類する普通名辭としての語彙の、甚だ多くが用ゐられる所以であり、是等の記載であるところの、文獻や典籍も亦夥しく存在するのである。然るに外國の比較的新しい圖書の分類法に於ては、(L・C・並に E・C・は少し趣を異にするが) D・C・及び之に則つた十進法が、その第二位の綱に於て試みてゐるのは、地理學的の五大洲別であり、而してそれが、例の記憶的數字の活用によつて、助記的の利便が圖られてゐることは、誰もが知る通りである。然し乍ら、茲に留意すべきことは、かゝる地理學的の五大洲別を、分類の第二位の綱に於て、早くも試みて當然とするが如きことは、それは歐米に於ける圖書館が、その國々に於ける圖書の集團を基礎としての、分類法としての意味に於てである事である。恐らく創案者アユウキー氏の目前には、現代日本の一圖書館の持つ程の和漢の典籍は、存在しなかつたものと言ひ得るのであつて、同時に移民國のアメリカとしては、地理學的の五大洲別に次いで、國別の必要ある様々の材料——人種展覽會を思はせるやうな各國の人間の風俗、言語、文學其他の記載であるところの圖書——が、この分類法の大家の机上には、山積されてゐたに違ひないのである。而して斯る事實は、一國家一民族の日本人としての吾々とは、餘程事情を異にするものと言はねばならぬ。

N・D・C・に於ては、その地理別法は殆ど無條件に、D・C・を踏襲するものであるが故に、歴史及び地誌の第二の綱に於て、「日本」を抽出すると同時に、直ちに五大洲別が行はれてゐる。かくて五大洲別といふことよりは、より大きい概念である等の東西兩洋の區別なるものは、止むを得ず亞細亞洲に又は歐羅巴洲にそれぞれの「總記」に附屬せしめざるを得なくなつてゐる。即ち「西洋古代史」は、「歐洲古代史」と居所を、異にせざるを得ないのである。これは概念上の不合理である許りでなく、實際上からしても、不都合を來すものゝやうに考へられる。即ち我國の一般圖書館では、東洋西洋に區別すべき書籍の數ほど、各洲別についての資料を持たぬであらうからである。これは N・D・C・の地理別法なるものが、洋書の分類に基礎を置いた D・C・のその、九十パーセントの直譯であるがために外ならぬ。何故に圖書館ばかりが、日本では未だ翻譯時代を謳歌せねばならぬのであらうか。

#### 形式別の非實際的

かく N・D・C・の地理別は、可なり生硬な直譯の範圍を、出でないものであることは茲に明であるが、その「言語別」及び「形式別」についても、亦同様の事實が認められるのを寔に遺憾とする。

即ち N・D・C・の言語別及び文學別は、二三の綱についての改訂を見たゞけで

これも亦殆んどD・Cそつくりであると言へる。従つて日本の一般図書館としては、當然最も大多数を占むべき和書が、支那を始め英、獨、佛、西、伊、露その他の諸國のもの、殆んど同様に僅か一つの綱のみの配け前しか、領有してゐないことになる。かくて一番多く使用されるであらう所の日本の文學書が、第四位以下の細分を必要とする結果、他の諸國の文學が、第二位又は第三位程度に、止るであらうのに拘らず、ペラ棒に長たらしい數字の分類記號を、必要とせればならぬことに立ち至るのである。例へば「和歌」の中の歌史や歌人の傳記、それから作歌法などにも亦、小数點以下の三數字を以て、指定されてゐる。全く何といふ配分の不均等であらうか。

凡そ、圖書分類法の實際的價値は、専らこれが適用上の至便と、いふことであらねばならぬ。分類が記號といふものと、表裏不離の關係を有し、記號がまた圖書の運用及び保管の上に、如何に甚大な影響を持つものであるかを思へば、圖書分類表に於ける綱目の配當は、特に重大な意義を持つべき筈である。そして我國の圖書館事業の發展が、直ちに以て圖書館に於ける、急速な蔵書の増加といふこととなく、また將來の開架の普遍的實行が、必ずしも極端な圖書の細分を、招來するものとは限らない以上、よき圖書分類法の根幹は、矢張り現存する大多數の圖書館そのものを、通觀してその實務上に適合すべく、樹立せらるべきものと信ずる。そこで、アメリカなどと比較すると、まだまだ大規模のもの少く我國の圖書館では、從來の經驗からして第三位程度の分類法が、最も手ごろのものとして、殆ど一般的に使用されてゐるといふことも、頗る自然であると言へやう。斯うした當然の事實からして、次の「形式別」の點についても亦、思考してみることが肝要である。

N・D・Cはその機構の殆ど全部を、D・Cのそれに倣ふものであるから「形式別」の「總記」は、第二位の綱としては各類の頭初、即ち零々に置かれて在るものである。例へば、過充雑多な類としての社會科學に於ける、第三位の目として「總記」の細別を成し得るものは、300の全般的に通ずるものに就いてのみであつて、其中の政治學、法律學、經濟學、財政學、統計學、社會學、教育學、民俗學、軍事學等の、夫々についての「總記」の分類は、何れも小数點以下の第四位から、始めねばならぬことになつてゐる。かくて經濟學の「總記」に於ける經濟學史の如きは、第四位から第六位まで即ち六數字を以て、表示することが必要とされてゐる。最近相當規模の我が圖書館の或るものが、從來の四數字を以てする圖書記號さへ不便であるとし、其全蔵書に對して三段本位の分類に、改訂したといふ事實を知るならば、N・D・Cが如何に後生大事にD・Cに準據したものであつても、現代日本の一般圖書館で使用さるべきものとしては、その機構上餘りにも、實際に迂闊な緣違ひのものであると、言ふことにもなるであらう。

### 共用分類は可能か

N・D・Cの金看板には、モ一つ「和漢洋書共用分類表」といふことが、大書されてゐる。而して此の「共用」の意味は、その「導言」中に述ぶる所に依ると、和漢洋書の混架といふことの、爲めであるらしい。事實上の混架に就いては兎も角、和漢書の分類にも洋書のそれにもどちらにも、適用の出来る分類法、即ち和漢洋書の統一分類といふことには、主義としては強ち之に反對するものではない。

然し乍ら、茲に再び繰り返すまでもなく、東西兩洋の文化の本質的相違といふものを、深く思考し認識するものにとつては、到底それが絶對的にはあり得なく、結局或る程度及び範圍に於ての實現、調和又は歩み寄りといふことが、可能視されるだけである。今これを、現在の我國圖書館の事實に就いてみても、比較的豊富に和漢書及び洋書を、收藏する大學其他の參考圖書館に於ては、多くは和洋書に對して、各別箇の分類表を適用するのが、往々常であるやうである。而して或る官立の大學圖書館では、大震災後に於ける新分類表の作製に當つて、和洋書を通じて僅に主類についてのみ、而も或る程度の妥協が期せられたわけであつた。また一方我國に於ける公共圖書館に眼を轉じて、洋書は和漢書に對して二割以下の冊數であるからして、その分類も亦洋書は和漢書に於けるが如き、詳密さを必要としないといふのが一般の現状である。恐らく將來と雖、この比率を著しく破る程に、洋書が購入されるものとは、考へられないのである。

如上の事實は暫く措き、N・D・Cについて見れば、その標榜する所の「和漢洋書」の共用といふことは、果してどの程度の分類の細別にまで、期待されてゐるかといふことが、重要な問題となつて來るのである。N・D・Cのリストには、多數の微細な種目に至るまで、邦語の項名に次いで英語の名稱で、一々御丁寧に記載されてゐることに依つてみると、多分その一萬を越ゆるといふ細末な項に至るまで、和漢書洋書の共用分類といふことが十分に可能視され、保證されてゐるものと言つていいであらう。つまり、茲には和漢洋書の共用分類が、絶對的にまで主張されてゐると言つていい。

惟ふに今日の日本人の生活が、いかに多分に西洋化したと言つても、その實相については尙、非常の距離のあることは當然である。過去の歴史的生活については、一層のことであると言へる。同じ歐羅巴に於て肩を押し合つてゐる國々できへ、それぞれの歴史と民族と生活との上には、今日と雖皆可なりの特異性を持つてゐるのである。斯ることは、廣い意味での人間生活の反映である所の、圖書といふものに對する分類法についても、亦同様に言ひ得らるべきものと信ずる。斯る觀點からしてN・D・Cについて見れば、政治に經濟に文學に美術に、その分類が綱より目へ、目より種に進行するに従ひ、配分の不均等や分類の不合理やが、

殆ど隨所に發見されざるを得ないのであつて、例へば國家、立法、行政等に互つての細別は、日本政府の現在の組織を基調としてゐるから、之に對應しての、英米其他の外國の關係資料の分類には、可なり不適當であり非實際的であつて、美術や音楽についても特に亦、これと同様の不都合が認められるのである。「傳記」に於ける日本皇室が、小数點以下の第四位でしか表示されてゐないのに、太平洋洲人叢傳（こんなんものが我が圖書館に果して幾冊位在るであらうか）が、第三位の目を占めてゐるなどは、例のD・C・を鶴飲みにして、無暗に記憶的數字に依る地理別法を試みた崇りであつて、事の大小輕重を無視した不手際な、項目配當の處置とこそ言はなければならぬ。かくてN・D・C・は、和漢書の分類法でもなく、洋書の分類法でもないところの、所謂「共用」の分類法でしかあり得ないことを、處れるものである。

#### 日本主義的でない

前節に於てN・D・C・が、それが絶對的の程度にまで、和漢洋書の共用分類を主張したものである以上、結局はその何れにも不合理であるに過ぎないであらうことを指摘したのであるが、全く共用分類などといふことは、自然科学に屬するものに對してこそ、比較的容易に實行し得られやうが、特に人文科學に關する限り到底思ひも及ばぬであらうと考へられるのである。然るにN・D・C・に於ては、洋の東西、時の古今、學の自然又は人文に拘らず、一切の事項に對して共用分類が極めて造作なく片付けられてゐる。かくて「國體」と「政體」とが、同一の細目であつたりして、時節柄某方面からでも、横槍が飛び出しそんな重大な事實が、その第三版に於てはさへ、平氣で明記されてあたりすることになる。これは要するに、永い歴史的傳統を持つ我國文化の、その顯著な特殊性に對して認諱を缺くものであり、N・D・C・が日本主義的でないといふ、有力な一つの證左なるものであらう。

N・D・C・は斯る意味に於て、甚だ日本的でないが之と同時に、他面では如何にもスマートな、現代人の相貌を思はせるものもある。それは新聞の速報式に、新しい事實をドシドシ表中に加へてゐることであり、滿洲國の獨立に因る新しい行政區域を、逸早く収めてゐるが如きは其一例であらう。然し未だ世界の何れの國に於ても、實用化されてゐないであらう所の、テレビジョンの家庭電送を豫期してか、演劇の末尾にも一目を用意してあるが如きは、これは又餘りにも行届いた新し過ぎるではないであらうか。斯うした立場からは、やがて成層圏旅行や宇宙線等々の新項目も、續々増加されるであらうことが、容易に想像されるのである。茲に參考すべき一事といふのは、ブリテイッシュ・ミュージアムの圖書館での、新しい出版物に對する慎重振りである。同館に於ては、凡て諸種の圖書に向つては三ヶ年の留保期間を以てして、世上の評價を俟つてから蔵書の手續を執る

こととなつてゐる。圖書分類表の中に、新しく一項目を加へるといふことは、これよりも尙一層の慎重を要するものと信ずる。單に新しい事實の出現や、外國の分類表に於ける新項名の發見などで、吾々の分類表の中へ、輕々しく之を加ふべきではないであらう。

次にN・D・C・が、甚だ日本的でない一つの理由としては、既述した通りD・C・直譯の地理別、言語別及び形式別の過重に在るものと言へやう。これは編者の所謂「似而非十進分類法」でない大きな特色とする所であるらしいが、かゝる助記的の要素は、D・C・原案に於ても決して第一義的のものではない許りか、或る場合に於ては記號の混亂といふことさへ、往々指摘され同法の一つの欠陥としてさへ數へられてゐるのである。從來の日本の圖書館がこれに學んで、而もその機構の全部を其儘採用しなかつたのは、よく自らの文化の特異性を認めた結果に、外ならぬことを一度こゝに、力強く言つておくものである。

#### 非標準分類表か

既にN・D・C・が、其名に「日本」を冠するに拘らず、凡そ日本主義なるものとは、可なりに縁の遠いものであることを説いた。こゝで問題は頭初に戻つて、所謂「標準分類表」であるかどうかについて、考査してみやう。

N・D・C・が實施されてゐる圖書館は、その第三版發賣の廣告に依るに四縣立圖書館、大都市に於ける二市立圖書館、大學の學部一圖書館、二専門學校圖書館、その他百數十館に達してゐるそうであるが、固より五千を算する我國の全圖書館の上からみれば、まだまだ普及されてゐるとは言へないのである。そして茲に、此の分布といふことに關聯して、一つの疑問が起らざるを得ないこととなる。それは一體N・D・C・は、公共圖書館向きの圖書分類法であるか、或はまた大學その他の參考圖書館、専門圖書館を睨つたものか、それとも總てのどんな圖書館にでもといふものか、未だその邊の確な主張を、編者又は代辯者の誰からも、聞かされてゐないことである。

今、N・D・C・のお手本である所のD・C・について觀れば、約半世紀間米國は固より英國その他の諸國に及んで、最も普及實施されたものであると言へ、その生誕の地の米國に於ても、三十年來専ら大學その他の參考圖書館方面では、反動運動が盛頭し來つたのである。それは議院圖書館分類法(L・C・)の、採用又は重用といふことである。事實、同國の大學及び參考圖書館の多くは、最近發つて之を準用しD・C・から改變したのである。従つてD・C・そのものは、専ら公共圖書館向きの分類法として、扱ふのが殆んど今日の定論となつてゐる。然るにN・D・C・はその成長の道程に於て、可なり學校及び専門圖書館の方面からの、後援や助力も加つてゐるといふから、或はD・C・原案よりも一層廣範圍の圖書館に對しても、役立つべきものと言ひ得るかも知れない。然し乍ら、これは決して無條件的

にはあり得ないであらうと思はれる。何故なれば、圖書館そのものが様々の種別を持ち、事務の性質を異にしてゐるのに、獨り圖書分類法のみが共通の、萬能選手的の偉力を發揮することは、到底難しいことだからである。そして此の問題に關しては、既に數年前の米國圖書館大會に於ても、重要な議題となつて幾多論議されたことである。而して N・D・C の編者が、その第三版の「使用法」に於て一般圖書館と特殊圖書館との、分類の實際に於ける差異を、一例を擧げて指示した位では、容易に解決し得ないものであると考へる。問題はモット全面的であり根本的であるであらう。N・D・C に於て斯種の問題が、充分に鮮明されてゐない限りは、吾々はそれが通俗、參考の何れの圖書館に對しても、將來等しく採用され得るものとは、信ずるに頗る躊躇するものである。然らば N・D・C はその父である D・C の如くに、専ら我國の公共圖書館の方面に於てでも、標準視され得るものであるかどうかと言ふに、之には唯一つの捷徑があり得るのみである。それは N・D・C が、既に指摘した主類排列の順序、類綱の名稱、助記號の使用、共同分類の意義等の點に於て、一層の研究改善を加へ、而して其他多くの意味に於てもヨリ一層に日本的ならしめることである。然し乍ら斯ることは、N・D・C そのものにとつては、「父」から受けた全骨格を改造し、「母」からの相貌を一新して終ふことになるから、N・D・C は最早 N・D・C では在り得なくなるであらう。

かくて N・D・C に對しては甚だ遺憾ではあるが、今日我國で公認されたものと言ひ得ざると同時に、また將來に於ても其の可能性が容易に保證し得ないものと言ふことになる。即ち「日本十進分類法」は、「標準分類表」でなく、又あり得ないものであらうといふ事に歸着する。と言ふのは、いくら忠實なる名畫の模寫であつても、模寫は模寫であつて、遂に名畫ではないのであらうから。

(一九三五年十一月)

THE DECIMAL CLASSIFICATION, 1876 to date, OF MELVIL DEWEY

I. OUTLINE.

- 0 General Works.
- 1 Philosophy.
- 2 Religion.
- 3 Sociology.
- 4 Philology.
- 5 Natural Science.
- 6 Useful Arts.
- 7 Fine Arts.
- 8 Literature.
- 9 History.

II. THE OUTLINE EXPANDED TO TWO FIGURES  
(100 SUB-DIVISIONS)

- 000 GENERAL WORKS.
- 010 Bibliography.
- 020 Library Economy.
- 030 General Cyclopaedias.
- 040 General Collections.
- 050 General Periodicals.
- 060 General Societies. Museums.
- 070 Journalism. Newspapers.
- 080 Special Libraries. Polygraphy.
- 090 Book Rarities.
- 100 PHILOSOPHY.
- 110 Metaphysics.
- 120 Special Metaphysical Topics.
- 130 Mind and Body.
- 140 Philosophical Systems.
- 150 Mental Faculties Psychology.
- 160 Logic. Dialectics.
- 170 Ethics.
- 180 Ancient Philosophies.
- 190 Modern Philosophers.
- 200 RELIGION.
- 210 Natural Theology.
- 220 Bible.
- 230 Doctrinal. Dogmatics. Theology.
- 240 Devotional. Practical.
- 250 Homiletic. Pastoral Parochial.
- 260 Church. Institutions. Work.
- 270 Religions. History.
- 280 Christian Churches and Sects.
- 290 Ethnic, Non-Christian.
- 300 SOCIOLOGY.
- 310 Statistics.
- 320 Political Science.
- 330 Political Economy.
- 340 Law.
- 350 Administration.
- 360 Associations and Institutions.
- 370 Education.
- 380 Commerce and Communication.
- 903 Customs. Costume. Folklore.

400 PHILOLOGY.

- 410 Comparative.
- 420 English.
- 430 German.
- 440 French.
- 450 Italian.
- 460 Spanish.
- 470 Latin.
- 480 Greek.
- 490 Minor Languages.

500 SCIENCE.

- 510 Mathematics.
- 520 Astronomy.
- 530 Physics.
- 540 Chemistry.
- 550 Geology.
- 560 Palaeontology.
- 570 Biology.
- 580 Botany.
- 590 Zoology.

600 USEFUL ARTS.

- 610 Medicine.
- 620 Engineering.
- 630 Agriculture.
- 640 Domestic Economy.
- 650 Communication Commerce.
- 660 Chemical Technology.
- 670 Manufactures.
- 680 Mechanic Trades.
- 690 Building.

700 FINE ARTS.

- 710 Landscape Gardening.
- 720 Architecture.
- 730 Sculpture.
- 740 Drawing. Decoration Design.
- 750 Painting.
- 760 Engraving.
- 770 Photography.
- 780 Music.
- 790 Amusements.

800 LITERATURE.

- 810 American.
- 820 English.
- 830 German.
- 840 French.
- 850 Italian.
- 860 Spanish.
- 870 Latin.
- 880 Greek.
- 890 Minor Language.

900 HISTORY.

- 910 Geography and Travels.
- 920 Biography.
- 230 Ancient History.

HISTORY—continued.

- 940 Europe.
- 950 Asia.
- 960 Africa.
- 970 North America.
- 980 South America.
- 990 Oceania and Polar Regions.

LINGUISTIC NUMBERS.

(Used in 400 and 800)

- 2 English.
- 3 German.
- 4 French.
- 5 Italian.
- 6 Spanish.
- 7 Latin.
- 8 Greek.
- 9 Minor Languages.

GEOGRAPHICAL NUMBERS.

(Used in 900 for dividing 910 Geography, and 940-99 Modern History, and any other class where geographical sub-division is necessary or possible).

CONTINENTS.

- 4 Europe.
- 5 Asia.
- 6 Africa.
- 7 America.
- 8 South America.
- 9 Oceania and Polar Regions.

COUNTRIES (EUROPE ONLY).

- 4 Europe.
- 41 Scotland.
- 415 Ireland.
- 42 England.
- 43 German.
- 436 Austria.
- 437 Czecho-Slovakia.
- 438 Poland.
- 439 Hungary.
- 44 France.
- 45 Italy.
- 46 Spain.
- 469 Portugal.
- 47 Russia.
- 48 Norway, Sweden, Denmark.
- 49 Minor Countries.

考

て、図書館そのものが様々の種  
圖書分類法のみが共通の、萬能  
だからである。そして此の問題  
も、重要な課題となつて幾多論  
その第三版の「使用法」に於て  
る差異を、一例を擧げて指示し  
る。問題はモット全面的であり  
題が、充分に鮮明されてゐない  
に對しても、將來等しく採用さ  
る。然らばN・D・Cはその父で  
面に於てでも、標準視され得る  
徑があり得るのみである。それ  
綱の名稱、助記號の使用、共同  
へ、而して其他多くの意味に於て  
乍ら斯ることは、N・D・Cその  
置し、「母」からの相貌を一新し  
ては在り得なくなるであらう。  
が、今日我國で公認されたものと  
性が容易に保證し得ないものと  
「標準分類表」でなく、又あり得  
のは、いくら忠實なる名電の模寫  
はないのであらうから。

(一九三五年十一月)

**Brussee Decimal**

- 000 Generalites
- 100 Philosophie
- 200 Religion
- 300 Sciences sociales
- 400 Philologie
- 500 Sciences naturelles
- 600 Sciences appliquees
- 700 Baux-arts et sports
- 800 Literature
- 900 Histoire et geographie

**Princeton Univ.**

- 0000 General works
- 1000 Historical science
- 2000 Language and literature
- 3000 Modern language and literature
- 4000 Arts
- 5000 Theology
- 6000 Sociology
- 7000 Philosophy and Education
- 8000 Natural sciences
- 9000 Technology

**Sayers' (Dewey alphabetic)**

- A General works
- B Bibliography and library economy
- C Philosophy
- D Natural religion
- E Revealed religion and its scriptures
- F Non-Christian religion and its scriptures
- G Sociology
- H Government and administration
- I Law
- J Commerce
- K Education
- L Customs
- M Philology
- N Science
- O Mathematical and physical sciences
- P Biological sciences
- Q Useful arts
- R Fine arts
- S Recreative arts
- T Literature
- U Poetry
- V Drama
- W Topography and travel
- X History
- Y Biography
- Z Fiction

**Borden's scheme**

- A General works
- B Philosophy
- C Religion
- D
- E
- F Sociology
- G Philology
- H
- I
- J Natural science
- K Medicine
- L Useful arts. Fine arts
- M Amusements
- N Literature
- O
- P Fiction
- Q Poetry
- R Drama
- S
- T History
- U
- V
- W Geography. Travels
- X Biography, Collected
- Y Biography, Individual
- Z Children's Library

**BLISS**

**MAIN CLASSES**

- A Philosophy, General Science, Logic, and Mathematics. Natural Sciences, Physical Sciences, in general. Metrology, and Statistics.
- B Physics, including applied physics and special physical technology.
- C Chemistry, including chemical technology and industries, including also Mineralogy.
- D Astronomy, Geology, Geography, Natural History, and Microscopy. *Geography here includes only the general and the physical.*
- E Biology. Paleontology and Biogeography are included.
- F Botany, including Bacteriology.
- G Zoölogy.
- H Anthropology, General, and Physical, including the Medical sciences, Hygiene, Physical Education, Recreation, etc.
- I Psychology. *Alternative is A1.*
- J Education.
- K Sociology, Ethnology, and Anthropogeography. *Alternative is P, if Religion, etc. be preferred in this place.*
- L History, General, and Ancillary studies, and Ancient History. *Geography, Historical; History, Social-political, Archaeology, etc.*
- M Europe, Geography and history, social-political and national.
- N America, Geography and history, social-political and national.
- O Australia, Polynesia, East Indies, Asia, Africa, etc. Geography, ethnography, and history.
- P Religion, Theology, and Ethics. *Alternative is K, or A1, or Z.*
- Q Applied Social Science and Ethics.
- R Political Science and Philosophy.
- S Jurisprudence and Law.
- T Economics.
- U Arts: Useful and Industrial Arts, and Technology. (Exceptions are noted above under Physics and Chemistry).
- V Fine Arts and Arts of Expression, Recreation, and Pastime.
- W Philology: Linguistics in general, and Languages other than Indo-European.
- X Indo-European Philology: Languages and Literatures, except English.
- Y English Language and Literature, Literature in general, Rhetoric and Oral expression, including Dramatics, Theater, and Journalism.

THE EXPANSIVE CLASSIFICATION, 1891-93, OF CHARLES AMMI CUTTER.

1. FIRST CLASSIFICATION.

- A Works of Reference and Works of a General Character, covering several Classes.
- B Philosophy and Religion.
- E Historical Sciences (Includes Biography, History, and Geography and Travels).
- II Social Sciences (Includes Statistics, Political Economy, Commerce, Poor, Charity, Education, Peace, Temperance, women, Politics, Government, Crime, Legislation, etc).
- L Sciences and Arts, both Useful and Fine.
- X Language.
- Y Literature (Includes Literary History, Bibliography and the Book Arts).
- Y<sub>F</sub> Fiction.

11. SECOND CLASSIFICATION.

(For a Library that has grown larger).

- A Works of Reference, etc.
  - B Philosophy and Religion.
  - E Biography.
  - F History.
  - F30 Europe.
  - F39 France.
  - F45 England, Great Britain.
  - F47 Germany.
  - F80 Asia.
  - F70 Africa.
  - F80 America.
  - F83 United States.
- In F30 will be put works on Europe and any of its parts, except France, England and Germany; and in F80 works on Asia or any of its parts and so on. *These numbers are from the Local List, a separate table of numbers used to mark places in order to secure geographical sub-division of subjects.*
- History includes: Antiquities, Inscriptions, Numismatics, Chivalry and Knighthood, Heraldry, Peerage.
- G Geography and Travels.
  - Divided by numbers from the Local List as F.
  - II Social Sciences.
  - L Physical Sciences.
  - Includes Science and Art (treated in the same book), Science (General Works), Mathematics, Physics, Chemistry, Astronomy.
  - M Natural History.
  - Includes Microscopy, Geology, Physical Geography, Meteorology, Palaeontology, Biology, Botany, Zoology, Anthropology, and Ethnology.
  - Q Medicine.
  - R Useful Arts.
  - V Recreative Arts, Sports and Games, Theatre, Music.
  - W Fine Arts.
  - Includes Aesthetics, Landscape Gardening, Architecture, Sculpture, Carving, Casting, Ceramics, Drawing, Painting, Engraving, Photography; Decorative Arts, Needlework, Costume, Furniture, Artistic Metal-Work.

Second Classification (continued).

- X Language.
- Y Literature.
- Y<sub>F</sub> Fiction.

*Cutter writes in regard to Music at V:—*  
 "In the broadest sense, the Fine Arts include Music, but as ordinarily used the phrase means Plastic and Graphic Fine Arts. The materials and methods of Music are entirely different from those of Architecture, Sculpture, Painting, etc., and the greater part of the works on the 'Fine Arts' do not include Music. For these reasons I think that what connexion there is (which is chief in Aesthetics) is sufficiently recognised by putting Music directly before Fine Arts"

111. THIRD TO SIXTH CLASSIFICATIONS.

The Third Classification shows the following extra sub-division:—

- A GENERAL WORKS.
- B PHILOSOPHY
- BR Religion and Religions (except the Christian and Jewish).
- C Christian and Jewish Religions.
- D Ecclesiastical History.
- E-F-G AS IN THE SECOND.
- H SOCIAL SCIENCES.
- I Sociology.
- J Government and Politics.
- K Legislation. Law. Women. Societies.
- L SCIENCE IN GENERAL.
- M NATURAL HISTORY IN GENERAL Microscopy, Geology, Biology.
- N Botany.
- O Zoology.
- Q MEDICINE.
- R USEFUL ARTS.
- S Engineering and Building.
- T Manufactures and Handicrafts.
- U Defensive and Preservative Arts.
- V RECREATIVE ARTS, SPORTS, THEATRE, MUSIC.
- W FINE ARTS
- X LANGUAGE
- Y LITERATURE.
- Y<sub>F</sub> FICTION.
- Z Book Arts.

All the letters of the Alphabetic outline are now in use except P. This in the Fifth Classification is used for part of Zoology and for Anthropology.

It will be seen that the outline is expanded in each successive classification, with the growth of the library to which it is applied.

A specimen of the full tables of the Seventh Expansion follows:—

IV. SEVENTH CLASSIFICATION.

A specimen from the complete classification.

LANGUAGE.

*Synopsis.*

- Language XD.
- Languages XE—XY.
- (Arranged by Families)
- Languages XE11—XE99.
- (Arranged by Local List)
- Oratory. Elocution XZ.
- XD.4 History of Linguistics.
- X .7 Periodicals.
- X .8 Societies.
- X .9 Collections.
- Language in General.
- XD GENERAL AND MISCELLANEOUS WORKS.
- XDA HISTORY OF LANGUAGE.
- XDAA Origin of Language.
- XDAB Brute Language.
- XDAF Flower Language.
- XDAG Gesture Language.
- XDAY Psychics of Language
- XDB Differentiation and Classification of Languages.
- XDC NAMES
- XDCF Forenames.
- XDCG Geographical Names.
- XDD Lexicography.
- XDE Etymology.
- XDF Phonology
- XDFP Physiology.
- XDG GRAMMAR.
- XDH Morphology.
- XDHI Isolation.
- XDHO Agglutination.
- XDHU Inflection.
- XDHZ Parts of Speech.
- XDI Noun.
- XDIW Adjective.
- XDIZ Pronoun.
- XDJ Verb.
- XDK Particles, etc.
- XDL Syntax.
- XDD Orthography.
- XDOT Transliteration.
- XDP Prosody, Metre.
- XDR Dialect.
- XDU Universal Language.
- XDW Esperanto.
- XE—XY LANGUAGES
- XE Families of Language, Comparative Philology.
- XEA General specialities etc.



CHART OF THE OUTLINE OF THE LIBRARY OF CONGRESS CLASSIFICATION

- A General Works. Polygraphy
- B Philosophy. Religion.
- C History—Auxiliary Sciences.
- D History and Topography (except America)
- E-F America.
- G Geography. Anthropology.
- H Social Sciences. General.
- H-A Statistics.
- H-B Economics. Theory.
- H-C Economic history, National production, economic situation (by countries)
- H-D Economic history. Organisation and situation of agriculture and industries
  - Land. Agriculture.
  - Corporations.
  - Labour.
  - Industries.
- H-E Transportation and communication.
- H-F Commerce. including tariff
- H-G Finance.
- H J Public finance.
- H-M Sociology. General and theoretical.
- J Political science. Documents.
- K Law.
- L Education. General works.
- M Music.
- N Fine Arts. General.
- P Language and Literature.
- Q Science. General.
- R Medicine. General.
- S Agriculture, Plant and Animal Industry.
- T Technology. General.
- U Military Science. General.
- V Naval Science General.

THE SUBJECT CLASSIFICATION, 1906, OF JAMES DUFF BROWN.

OUTLINE.

- A generalia.
- Matter and Force.
- B-D Physical Science.
- Life.
- E-F Biological Science.
- G-H Ethnology, Medicine.
- I Economic Biology. Domestic Arts.
- Mind.
- J-K Philosophy and Religion.
- L Social and Political Science.
- Record.
- M Language and Literature.
- N Literary Forms. Fiction. Poetry.
- O-W History and Geography.
- X Biography.

PRINCIPAL DIVISIONS.

- A GENERALIA.
- B, C, D PHYSICAL SCIENCE.
- E, F BIOLOGICAL SCIENCE.
- G, H ETHNOLOGY AND MEDICINE.
- I ECONOMIC BIOLOGY. DOMESTIC ARTS.
- J, K PHILOSOPHY AND RELIGION.
- L SOCIAL AND POLITICAL SCIENCE.
- M LANGUAGE AND LITERATURE.
- N LITERARY FORMS.
- O-W HISTORY AND GEOGRAPHY.
- P OCEANIA AND ASIA.
- Q, R EUROPE (South, Latin, etc.).
- S, T EUROPE (Nor Teutonic, Slavonic).
- U, V BRITISH ISLANDS.
- W AMERICA.
- X BIOGRAPHY.

昭和十五年十一月十一日印刷  
昭和十五年十二月一日發行

定價 二圓六十錢（内地送料共）

不許複製

著者 毛利宮彦  
發行者 東京市牛込區津久土町八番地 毛利宮彦  
印刷所 東京市下谷區二長町一番地 東神堂印刷所  
印刷者 佐藤進

發行所

東京市牛込區津久土町八番地 圖書館事業研究會

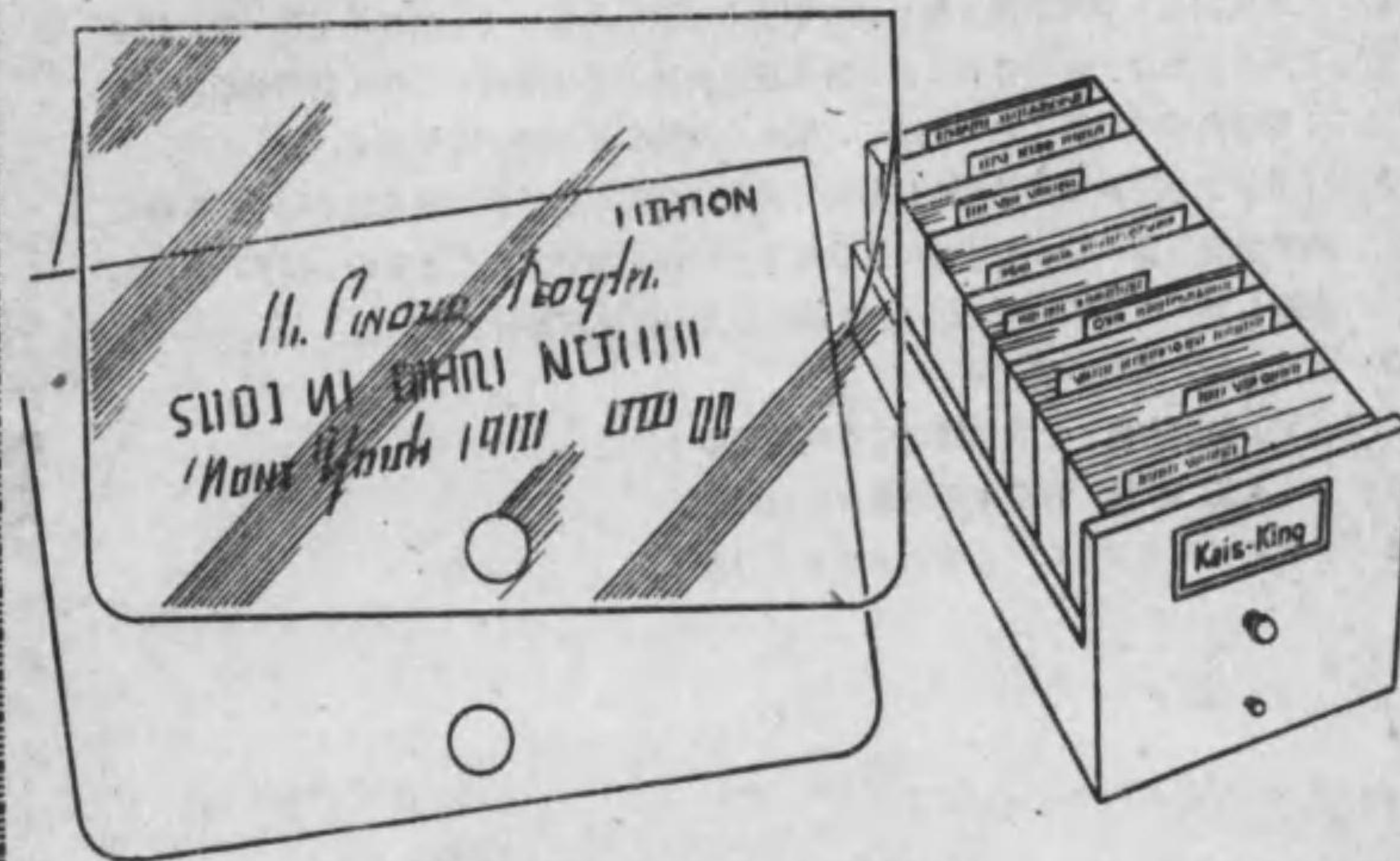
賣捌所

東京市日本橋區通二丁目 丸善株式會社（總店東京 五番）  
東京市麴町區九段下 東京堂（總店東京 二七〇番）  
東京市日本橋區吳服橋 大阪屋號書店（總店東京 一三七五番）

## 圖書館

▶▶ の厚生化と經濟化には ◀◀  
トランスデキス

# 補装カードを!!



### その五つの大きな特色

- 1 トランスデキス・カードは検索に依るカードの直接の汚損からは完全に保護せられ全く衛生的となり得ます。
- 2 カードの表裏を補装されますから耐久的となり、新しいものとの差し換へが不必要で大いに経済的であります。
- 3 指頭での一枚一枚のカードの繰りが容易となり、検索上の勞を省くと同時にカードの生命をして永からしめます。
- 4 表裏両面が補装され従つて鐵棒の通ずるカードの穴も補強されることとなり無理に引き抜かれる憂を減じます。
- 5 被覆によつて包まれる故カードは従來のものよりは薄い紙質でも事足り費用が大に節約できるわけであります。

圖書館事業研究會

東京牛込津久戸町八番地・振替口座東京 33862 番

# 圖書館の科學振興運動には

## 工學普及會の最新工業資料の常備を!!

### 最新工學普及會 會規摘要

1. 「最新内外工學雜誌內容總目錄及索引」は藤山工業圖書館備付の工學工業に關する内外國雜誌、各學會並に公私研究調査機關の報告等約七百種の新刊到着次第直に其の内容の全部(論文、題目、筆者)頁數を月一回印刷報導す。
2. 「最新工學文獻摘錄通信」は前記「最新内外工學雜誌內容總目錄」の中、本會に於て重要と認めたるもの並に各會員より摘錄を指定されたるものの題目の梗概を摘錄しカード(75mm×52mm)を以て毎月四回印刷發行す。
3. 本會々員を左の二種に分つ  
 特別會員 會費年額金貳百四拾圓也  
 正會員 會費年額金壹百貳拾圓也
4. 各會員には實費を以て原文の寫眞複寫に應ず。(其他略)



摘錄カード縮寫見本

### 財法人 最新工學普及會

東京市芝區白金台町一ノ五六・藤山工業圖書館内

↓二千六百年記念事業に最適の新施設!!  
 (詳細は御照會次第回答申上げます)

R014. 4-Mo451㊦



1200500765517

R

4.4

0451

終